

(別表第1)

## サービス評価結果表

### サービス評価項目

(評価項目の構成)

#### I. その人らしい暮らしを支える

(1) ケアマネジメント

(2) 日々の支援

(3) 生活環境づくり

(4) 健康を維持するための支援

#### II. 家族との支え合い

#### III. 地域との支え合い

#### IV. より良い支援を行うための運営体制

ホップ 職員みんなで自己評価!  
 ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!  
 ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー  
 “愛媛県地域密着型サービス評価”

#### 【外部評価実施評価機関】※評価機関記入

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	愛媛県松山市持田町3丁目8-15
訪問調査日	平成29年10月30日

#### 【アンケート協力数】※評価機関記入

家族アンケート	(回答数) 7名	(依頼数) 18名
地域アンケート回答数	2名	

#### ※事業所記入

事業所番号	3870105750
事業所名	グループホーム齋院の杜
(ユニット名)	1F
記入者(管理者)	
氏名	嶋屋 浩典
自己評価作成日	平成29年 10 月 1 日

<p>【事業所理念】</p> <p>1.入居者に対しては、常に一人ひとりの人格を尊重し、人生の先輩として敬意あふれる環境の下、有する能力に応じた日常生活が送れるように努めます。</p> <p>2.職員は、自分の仕事に誇りを持ち、「家訓」の実践に工夫と反省を心掛けて、「自分や家族が入居したいと思う」職場作りに努めます。</p>	<p>【前回の目標達成計画で取り組んだこと・その結果】</p> <p>1、入居者の情報をより多く収集し本人の思いや意向を介護計画に反映する必要がある。</p> <p>○本人の思いや意向を聞いて申し送り職員の共通認識が出来、外出支援・個別ケア実施に繋がった。介護計画の説明時に家族にも外出支援について理解して頂けた。</p> <p>○家族と事業所との信頼関係がより密になれるよう工夫する必要がある。</p> <p>○昨年12月と今年8月年2回家族会の実施を目指し取り組んでいる。また、家族会の前にアンケートを配布して改善出来るように努めている。また、季節ごとに事業所便りを配布して家族にも楽しんで頂いている。</p>	<p>【今回、外部評価で確認した事業所の特徴】</p> <p>頼れる存在の管理者を軸として、職員は利用者を人生の先輩として敬意、一人ひとりの意向を把握し、全員が笑顔で過ごせるよう支援している。利用者には調理の食材の準備など、できることを手伝ってもらっており、積極的に取り組む姿勢が窺える。地域の拠点として機能の充実を目指し、努力を積み重ねている事業所である。</p>
---	---	---

## 評価結果表

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
<b>I. その人らしい暮らしを支える</b>									
<b>(1) ケアマネジメント</b>									
1	思いや暮らし方の希望、意向の把握	a	利用者一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。	△	コミュニケーションの際、会話の中から希望・要望を聞き把握できるように努めている。また家族には面会時や介護計画を説明したときに希望や意向をお伺いしている。	○	/	○	利用者一人ひとりの思いを日頃の会話から把握するよう努め、家族からも面会時に利用者の意向等を確認している。
		b	把握が困難な場合や不確かな場合は、「本人はどうか」という視点で検討している。	○	普段の様子・行動・言動から「本人なら」と利用者の目線に立って考えるように取り組んでいる。	/	/	/	
		c	職員だけでなく、本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)とともに、「本人の思い」について話し合っている。	△	家族や面会に来られた親戚・知人の方の思いを伺い、家族の思いを大切に話し合っている。中には関わりが持っていない家族もいる。	/	/	/	
		d	本人の暮らし方への思いを整理し、共有化するための記録をしている。	△	一日の様子、ささいな事でも記録に残している。その情報を職員間で共有し把握に努めている。	/	/	/	
		e	職員の思い込みや決めつけにより、本人の思いを見落とさないように留意している。	○	会話の中から本人の思いが聞き取れるよう利用者との時間を大切にしている。家族にも確認し利用者主体の思いを知るように努めている。	/	/	/	
2	これまでの暮らしや現状の把握	a	利用者一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、こだわりや大切にしてきたこと、生活環境、これまでのサービス利用の経過等、本人や本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)から聞いている。	○	入所時のアセスメント票を使用して情報を把握し会話から情報を広げている。その中で生活歴・習慣・趣味を知り介護計画に反映できるように取り組んでいる。	/	/	○	入居後に介護支援専門員を交え相談の場を設け、利用者の生活歴や趣味、こだわりなどについてアセスメント票に記録し介護計画に活かしている。
		b	利用者一人ひとりの心身の状態や有する力(わかること・できること・できそうなこと等)等の現状の把握に努めている。	○	知りえた情報を基に日々の体調に合わせて出来る事を一緒に取り組んでいる。	/	/	/	
		c	本人がどのような場所や場面で安心したり、不安になったり、不安定になったりするかを把握している。	△	不安になる前どんな活動をされていたか記録で確認し、要因が何なのか話し合っている。	/	/	/	
		d	不安や不安定になっている要因が何かについて、把握に努めている。(身体面・精神面・生活環境・職員のかかわり等)	○	その日の体調・時間・人等要因となりような所を整理し前後の様子を照らし合わせて把握に努める。	/	/	/	
		e	利用者一人ひとりの一日の過ごし方や24時間の生活の流れ・リズム等、日々の変化や違いについて把握している。	△	利用者の生活の流れに合わせてリズムを崩さないようこまかく記録に残し把握に努めている。	/	/	/	
3	チームで行うアセスメント(※チームとは、職員のみならず本人・家族・本人をよく知る関係者等を含む)	a	把握した情報をもとに、本人が何を求め必要としているのかを本人の視点で検討している。	○	集めた情報を職員間で共有し実現に向けて取り組んでいる。	/	/	○	取得した情報は職員間で共有し、利用者が求めているものは何かという視点で話し合いを進めている。
		b	本人がより良く暮らすために必要な支援とは何かを検討している。	△	集めた情報を整理し生活歴・趣味・習慣を把握して今必要な支援について話し合っている。	/	/	/	
		c	検討した内容に基づき、本人がより良く暮らすための課題を明らかにしている。	○	ミーティング記録や申し送りノートを活用し記録している。また面会時や電話連絡の時に家族に課題について説明し協力して頂けるよう努めている。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
4	チームでつくる本人がより良く暮らすための介護計画	a	本人の思いや意向、暮らし方が反映された内容になっている。	○	利用者一人一人の暮らしの希望や想いを把握できるように努めている。本人の願いを一つでも実現できるように前向きに取り組んでいる。	/	/	/	利用者がより安心して暮らすにはどうしたらいいかということを念頭に、利用者や家族、職員を交え話し合い、取りまとめた結果を介護計画に反映している。
		b	本人がより良く暮らすための課題や日々のケアのあり方について、本人、家族等、その他関係者等と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映して作成している。	○	本人の好きな物を居室に置き安心した生活が送れるように工夫している。	◎	/	○	
		c	重度の利用者に対しても、その人が慣れ親しんだ暮らし方や日々の過ごし方ができる内容となっている。	○	本人の馴染みのある物や好きな物を居室におき安心した生活を送っていただけるように工夫している。また家族の面会の時に懐かしい会話や時間を過ごしていただけるよう努めている。	/	/	/	
		d	本人の支え手として家族等や地域の人たちとの協力体制等が盛り込まれた内容になっている。	○	墓参りに行きたい利用者がおり、家族と相談して計画を立てたり協力していただいている。	/	/	/	
5	介護計画に基づいた日々の支援	a	利用者一人ひとりの介護計画の内容を把握・理解し、職員間で共有している。	△	介護計画について理解出来ない職員もあり、ミーティングで話し合っ情報共有を図っている。	/	/	△	介護計画については、理解していない職員もいるので、皆がケアに活かせるよう内容を理解することが望まれる。申し送りに力を入れ、その日の利用者の状況は職員全員が共有するようにしている。介護記録内容は量の多い少ないはあるが、利用者一人ひとりの具体的な感謝の言葉や表情、職員の気づきや工夫などを記録に残している。
		b	介護計画にそってケアが実践できたか、その結果どうだったかを記録して職員間で状況確認を行うとともに、日々の支援につなげている。	○	申し送りの時に一日の様子を伝え、その日の体調に合わせて実施している。	/	/	○	
		c	利用者一人ひとりの日々の暮らしの様子(言葉・表情・しぐさ・行動・身体状況・エピソード等)や支援した具体的内容を個別に記録している。	△	その日の様子を介護記録に残している。また本人の表情や言葉なども記入している。	/	/	○	
		d	利用者一人ひとりについて、職員の気づきや工夫、アイデア等を個別に記録している。	○	新しい取り組みを行った時は表情・様子・発した言葉を記入するようにしている。また、もう申し送りノートにも記入している。	/	/	○	
6	現状に即した介護計画の見直し	a	介護計画の期間に応じて見直しを行っている。	△	期間は6か月にしているが、本人の状態や結果を照らし合わせてその都度変更していく場合もある。家族にもその都度連絡をしている。	/	/	○	6か月で見直しをしている。利用者の状態に変化がある時は、その都度家族にも確認し介護計画を変更している。毎月末に利用者の状況を確認しており、変化が見られなくても話し合い変更するべきかどうか検討している。利用者の状態に変化があった場合は、担当者を中心に家族も含めカンファレンスで見直しを含め協議している。
		b	新たな要望や変化がみられない場合も、月1回程度は現状確認を行っている。	○	毎月月末に評価をして現状確認をしている。その中で継続するべきなのか変更するべきなのか話し合いを行っている。	/	/	○	
		c	本人の心身状態や暮らしの状態に変化が生じた場合は、随時本人、家族等、その他関係者等と見直しを行い、現状に即した新たな計画を作成している。	○	本人の心身の状態に変化があった場合にはカンファレンスで話し合い見直すべきか検討している。変更する場合は家族に連絡し理解して頂いている。	/	/	○	
7	チームケアのための会議	a	チームとしてケアを行う上での課題を解決するため、定期的、あるいは緊急案件がある場合にはその都度会議を開催している。	○	毎月ミーティングを開催しており、利用者カンファレンスに時間を設け情報の共有を図っている。また、緊急を要する場合は緊急のミーティングを開催する場合もある。	/	/	○	緊急ミーティングを開催する時には、各フロアの職員が利用者の見守りに差支えないよう協力しあっている。会議に参加できない職員には、申し送りノートで内容を正確に伝達するよう努めている。
		b	会議は、お互いの情報や気づき、考え方や気持ちを率直に話し合い、活発な意見交換ができるよう雰囲気や場づくりを工夫している。	○	職員が議題の利用者を決め、司会者を中心に自由に意見が言える環境作りを目指している。	/	/	/	
		c	会議は、全ての職員を参加対象とし、可能な限り多くの職員が参加できるよう開催日時や場所等、工夫している。	○	会議は全職員が対象ではあるが、参加できない場合は記録を読んで情報の共有を図ったり申し送りの時に会議の内容を伝えている。また研修に参加した職員が担当となって勉強会を実施している。	/	/	/	
		d	参加できない職員がいた場合には、話し合われた内容を正確に伝えるしくみをつくっている。	△	ミーティング記録を読んで共有を図ったり、口頭で伝えている。	/	/	○	
8	確実な申し送り、情報伝達	a	職員間で情報伝達すべき内容と方法について具体的に検討し、共有できるしくみをつくっている。	△	申し送りでは口頭や業務日誌の特記事項に記入し情報の共有を図っている。また申し送りノートを活用し伝達できるようにしている。	/	/	○	業務日誌の特記事項欄に記入し、職員間で確実に共有している。
		b	日々の申し送りや情報伝達を行い、重要な情報は全ての職員に伝わるようにしている。(利用者の様子・支援に関する情報・家族とのやり取り・業務連絡等)	○	申し送りノートにはサイン欄を設け出勤時に目を通してから業務にあたっている。	◎	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
<b>(2) 日々の支援</b>									
9	利用者一人ひとりの思い、意向を大切にされた支援	a	利用者一人ひとりの「その日したいこと」を把握し、それを叶える努力を行っている。	△	毎日一人ひとり全員の希望が叶うことは出来ていないが利用者とのコミュニケーションを大切に叶えられるように努めている。	/	/	/	朝食時の主食の選択や入浴の希望など、自己決定できる機会をつくり意思を尊重するよう努めている。花の好きな利用者のために食卓に花を活けたり、戸外の花を見に行くなど潤いある表情を引き出すための声かけや環境作りにも取り組んでいる。
		b	利用者が日々の暮らしの様々な場面で自己決定する機会や場をつくっている。(選んでもらう機会や場をつくる、選ぶのを待っている等)	○	自分で服を選んだり、朝食ではごはん・パンなどで決められる機会を持てるように配慮している。	/	/	○	
		c	利用者が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた支援を行うなど、本人が自分で決めたり、納得しながら暮らせるよう支援している。	○	買い物と一緒に行き自分で選んで購入する機会を設けている。外出支援に力を入れていけるよう取り組んでいる。	/	/	/	
		d	職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースや習慣を大切にされた支援を行っている。(起床・就寝、食事・排泄・入浴等の時間やタイミング・長さ等)	○	起床時間・就寝時間など利用者一人ひとりの時間に合わせて支援している。	/	/	/	
		e	利用者の生き生きとした言動や表情(喜び・楽しみ・うるおい等)を引き出す言葉がけや雰囲気づくりをしている。	○	利用者一人ひとりが意欲的になれるようコミュニケーションを大切にしている。	/	/	○	
		f	意思疎通が困難で、本人の思いや意向がつかめない場合でも、表情や全身での反応を注意深くキャッチしながら、本人の意向にそった暮らし方ができるよう支援している。	○	本人の思いに近づけるよう知れた情報をもとに職員間で共有し支援している。	/	/	/	
10	一人ひとりの誇りやプライバシーを尊重した関わり	a	職員は、「人権」や「尊厳」とは何かを学び、利用者の誇りやプライバシーを大切にされた言葉かけや態度等について、常に意識して行動している。	○	一人ひとりのペースを大切し、利用者の状態に合わせて声掛けや支援を行い安心して生活を送っていただけるよう配慮している。	○	○	○	年1回の職員研修やミーティング等により、利用者の人権や尊厳について全職員が共有している。トイレ誘導時には、他の利用者にはわからないよう優しく耳元で柔らかいトーンで話しかけている。居室の掃除等で入室する時は必ず声かけしている。ドアが開いていても閉じていても、必ずノックや声かけは忘れないで行っている。
		b	職員は、利用者一人ひとりに対して敬意を払い、人前であからさまな介護や誘導の声かけをしないよう配慮しており、目立たずさりげない言葉がけや対応を行っている。	○	他者がいる前で支援内容が分からないように声の大きさやさりげない声掛けをするように配慮している。	/	/	○	
		c	職員は、排泄時や入浴時には、不安や羞恥心、プライバシー等に配慮ながら介助を行っている。	△	入浴介助など安全を気にしながらプライバシーの配慮を行っている。	/	/	/	
		d	職員は、居室は利用者専用の場所であり、プライバシーの場所であることを理解し、居室への出入りなど十分配慮しながら行っている。	△	利用者の居室の入室時や本人に声掛けをしてから入室するよう配慮している。	/	/	○	
		e	職員は、利用者のプライバシーの保護や個人情報漏えい防止等について理解し、遵守している。	○	個人情報の取り扱いについては代表より知識を深め厳守出来るよう行っている。	/	/	/	
11	ともに過ごし、支え合う関係	a	職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、利用者に助けってもらったり教えてもらったり、互いに感謝し合うなどの関係性を築いている。	△	利用者「ありがとう」と職員が感謝の気持ちを伝えられるように努めている。	/	/	/	利用者の中にムードメーカーがおり、利用者同士がトラブルにならないよう場を和ませてくれている。利用者同士仲が良く特に席は決めておらず、食事の際も笑顔で会話している。
		b	職員は、利用者同士がともに助け合い、支え合って暮らしていくことの大切さを理解している。	○	利用者同士トランプをして楽しく過ごされている場面がある。利用者がお互い支え合って暮らしている。	/	/	/	
		c	職員は、利用者同士の関係を把握し、トラブルになったり孤立したりしないよう、利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。(仲の良い利用者同士が過ごせる配慮をする、孤立しがちな利用者が交わる機会を作る、世話役の利用者にうまく力を発揮してもらう場面をつくる等)。	○	利用者同士の会話や助け合いに対して出来るだけ見守るよう努めている。また不安や困惑が見られる場合は職員が間に入るように工夫している。	/	/	○	
		d	利用者同士のトラブルに対して、必要な場合にはその解消に努め、当事者や他の利用者に不安や支障を生じさせないようにしている。	△	トラブルになりそうな場面や不安になる場合を職員が把握し、必要に応じて間に入り支援している。	/	/	/	

愛媛県グループホーム斎院の社

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
12	馴染みの人や場との関係継続の支援	a	これまで支えてくれたり、支えてきた人など、本人を取り巻く人間関係について把握している。	△	本人や家族から会話の中から聞き取り把握に努めているが新しい職員も増え、十分に把握できていないこともある。	/	/	/	
		b	利用者一人ひとりがこれまで培ってきた地域との関係や馴染みの場所などについて把握している。	○	各担当者が把握に努めている。馴染みの場所へドライブに行ったり家族に協力して頂き計画する場合もある。	/	/	/	
		c	知人や友人等に会いに行ったり、馴染みの場所に出かけていくなど本人がこれまで大切にしてきた人や場所との関係が途切れないよう支援している。	△	外出する機会はあるが本人が知人に会う場合はこちらに来て頂く事が殆どでこちらからお伺いする支援は出来ていない。	/	/	/	
		d	家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪れ、居心地よく過ごせるよう工夫している。	○	大人数で来られた時は会議室を解放して皆様でゆっくり過ごして頂けるよう配慮している。また玄関回りに花を植えるなど環境作りも行っている。	/	/	/	
13	日常的な外出支援	a	利用者が、1日中ホームの中で過ごすことがないよう、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう取り組んでいる。(職員側の都合を優先したり、外出する利用者、時間帯、行き先などが固定化していない)(※重度の場合は、戸外に出て過ごすことも含む)	○	天気のいい日には近くの公園や川沿いに散歩に出かけベンチでお茶をしたり鯉に餌やりをして過ごしている。玄関先には季節の花や今年から野菜も植え見ている。また、日用品と一緒に買いに行ったり個別ケアも行っている。	○	×	○	近くの公園に散歩に出かけ、ベンチでお茶を飲んだり川の鯉に餌をあげたりしている。スーパーの買い物に同行する利用者もいる。散歩の際は近所の方とあいさつを交わし会話もしている。車いす利用者が選挙に行きたいとの希望があり、家族の協力を得て投票に行くことはあるが、利用者全員の外出支援にまでは至っていないので、今後は積極的に外出を増やすような取組みに期待したい。
		b	地域の人やボランティア、認知症サポーター等の協力も得ながら、外出支援をすすめている。	×	ボランティアやサポーターはなく、職員が支援したり、家族の力を借りながら取り組んでいる。	/	/	/	
		c	重度の利用者も戸外で気持ち良く過ごせるよう取り組んでいる。	△	玄関先の花を見て過ごしたり、ほかのユニットに遊びに行き気分転換を図れるように工夫している。また、事業所の車を使用して外出支援を行っている。	/	/	△	
		d	本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら、普段は行けないような場所でも出かけられるように支援している。	○	お墓参りが行きたい利用者は家族に相談して実現に向けて計画している。	/	/	/	
14	心身機能の維持、向上を図る取り組み	a	職員は認知症や行動・心理症状について正しく理解しており、一人ひとりの利用者の状態の変化や症状を引き起こす要因をひもとき、取り除くケアを行っている。	○	認知症の外部研修に参加し知識を深めている。また研修後は社内研修を開き知識を深めている。	/	/	/	裁縫の得意な利用者には、繕いやボタン付けなどをしてもらったり、食後の下膳などできることは皆にってもらうなど、職員は利用者が色々な場面で力が発揮できるよう支援に努めている。
		b	認知症の人の身体面の機能低下の特徴(筋力低下・平衡感覚の悪化・排泄機能の低下・体温調整機能の低下・嚥下機能の低下等)を理解し、日常生活を営む中で自然に維持・向上を図れるよう取り組んでいる。	○	昔は山登りが好きだった利用者は散歩を日課にして天気の良い日にはよく散歩に出かけている。	/	/	/	
		c	利用者の「できること、できそうなこと」については、手や口を極力出さずに見守ったり一緒に行うようにしている。(場面づくり、環境づくり等)	△	一緒に作業をして作業を見ながら自分で取り組んでみたり、皆で行ったりして自分で少しでも出来るように配慮している。	◎	/	○	
15	役割、楽しみごと、気晴らしの支援	a	利用者一人ひとりの生活歴、習慣、希望、有する力等を踏まえて、何が本人の楽しみごとや役割、出番になるのかを把握している。	○	本人や家族から生活歴を聞き取り、仕事や習慣や趣味が継続して行えるように配慮している。	/	/	/	利用者の状態にかかわらず、喜びのある生活を送ってもらうようダンスやカラオケ、餅つきやしめなわ作りなど、役割や出番をつくるよう支援に努めている。
		b	認知症や障害のレベルが進んでも、張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、日常的に、一人ひとりの楽しみごとや役割、出番をつくる取り組みを行っている。	△	状態が変化・その日の体調に合わせて出来る事を無理強やさせることなく取り組んでいる。	◎	○	○	
		c	地域の中で役割や出番、楽しみ、張り合いが持てるよう支援している。	△	地域の方が事業所の行事に参加された時は地域の方とあいさつをして関係を深めている。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
16	身だしなみやおしゃれの支援	a	身だしなみを本人の個性、自己表現の一つととらえ、その人らしい身だしなみやおしゃれについて把握している。	△	本人や家族にこだわりをお伺いし、その人らしいおしゃれが継続して行えるよう配慮している。				髭剃りは日課となっており、剃り残しがないよう職員が確認している。テーブルの上にティッシュが用意され、食べこぼしは自分で処理できるようになっているが、常に職員が見守っており口の周りなどの汚れはさりげなく拭くようにしている。利用者全員が毎日着替えをしており、状態にかかわらずその人らしさが保てるよう支援に努めている。
		b	利用者一人ひとりの個性、希望、生活歴等に応じて、髪形や服装、持ち物など本人の好みで整えられるように支援している。	○	散髪の際に自分で髪型を伝え整えている方のいる。選択肢を設け、自分で決められるように工夫している。				
		c	自己決定がしにくい利用者には、職員と一緒に考えたりアドバイスする等本人の気持ちにそって支援している。	○	話の中で汲み取ったり家族の話と本人の話を照らし合わせて一緒に考えている。				
		d	外出や年中行事等、生活の彩りにあわせてその人らしい服装を楽しめるよう支援している。	○	外出前自分で支度をして外出先に合わせて身だしなみを整えて出発する方もいる。				
		e	整容の乱れ、汚れ等に対し、プライドを大切にしたりさりげなくカバーしている。(髭、着衣、履き物、食べこぼし、口の周囲等)	△	自分で直せる方にはさりげなく声掛けし、自分で直せない方は職員が直したり利用者に合わせて支援している。	◎	◎	○	
		f	理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	△	個別に美容室に通っている方もいるがほとんど訪問して頂いている所を使用している。				
		g	重度な状態であっても、髪形や服装等本人らしさが保てる工夫や支援を行っている。	△	出来る範囲でその人らしさが保てるように努めている。			○	
17	食事を楽しむことのできる支援	a	職員は、食事の一連のプロセスの意味や大切さを理解している。	△	利用者の嚥下・咀嚼等の状態は把握しており、支援が必要な場合は介助している。				献立は調理師と職員が利用者の嗜好を取り入れ立てている。利用者は玉葱の皮むきや、もやしのひげ取りなどの準備を手伝っている。行事食の定番で利用者の好きなちらし寿司は、誕生日には欠かせないメニューでいつも喜んでもらっている。そうめん流しやいもたきなど季節感も取り入れている。ごはんがわかりやすいよう黒色の茶碗にしたり、利用者の好みのコップなどにしている。利用者の食事サポートも大事であるが、今後は利用者と一緒に会話をしながら食事をするにも取り組んで欲しい。事業所が料理の音や香りなどが利用者へ届きやすいような造りのため、利用者は毎日食事を待ち遠しく思っている。調理師に相談しながら、栄養バランスも考慮の上献立を作成している。
		b	買い物や献立づくり、食材選び、調理、後片付け等、利用者とともにやっている。	○	献立は職員が作っており利用者に食べたい物好きな物を聞いて盛り込んでいる。調理は調理師に任せており、旬の物をたくさん使い四季を感じて頂いている。			○	
		c	利用者とともに買い物、調理、盛り付け、後片付けをする等を行うことで、利用者の力の発揮、自信、達成感につなげている。	△	食後下膳して下さる利用者もいる。				
		d	利用者一人ひとりの好きなものや苦手なもの、アレルギーの有無などについて把握している。	◎	利用者のアレルギーは入所の際に本人・家族から聞き取り情報の共有を図っている。				
		e	献立づくりの際には、利用者の好みや苦手なもの、アレルギー等を踏まえつつ、季節感を感じさせる旬の食材や、利用者にとって昔なつかしいもの等を取り入れている。	○	職員と調理師が献立作りを行っており、旬の物・利用者の好きな物を取り入れながら作っている。			○	
		f	利用者一人ひとりの咀嚼・嚥下等の身体機能や便秘・下痢等の健康状態にあわせた調理方法とつつ、おいしいような盛り付けの工夫をしている。(安易にミキサー食や刻み食で対応しない、いろどりや器の工夫等)	○	利用者の咀嚼・嚥下能力に合わせて食事形態を変更している。美味しく食べられるよう盛り付けにも配慮している。				
		g	茶碗や湯飲み、箸等は使い慣れたもの、使いやすいものを使用している。	△	以前使用していた物を継続して使って頂く場合や新規購入する場合は一緒に選んで購入するように配慮している。			○	
		h	職員も利用者と同じ食卓を囲んで食事を一緒に食べながら一人ひとりの様子を見守り、食事のペースや食べ方の混乱、食べこぼしなどに対するサポートをさりげなく行っている。	×	利用者と一緒に食事しており、利用者の様子を把握しながら楽しく食事をしている。			△	
		i	重度な状態であっても、調理の音やにおい、会話などを通して利用者が食事が待ち遠しくおいしく味わえるよう、雰囲気づくりや調理に配慮している。	△	居室の戸を開け料理の香りや生活音が居室に届くように工夫している。	◎		○	
		j	利用者一人ひとりの状態や習慣に応じて食べられる量や栄養バランス、カロリー、水分摂取量が1日を通じて確保できるようにしている。	○	食事量や水分量をチェックし申し送りの際に引き継ぎを行っている。利用者の体調に合わせて、食事時間や量・形態も量の工夫も行っている。				
		k	食事量が少なかったり、水分摂取量の少ない利用者には、食事の形態や飲み物の工夫、回数やタイミング等工夫し、低栄養や脱水にならないよう取り組んでいる。	○	体調によって食事の時間をずらしたり、好きな物を出して様子を見ている。また無理強いさせる事なく本人の様子を見ながら対応している。				
		l	職員で献立のバランス、調理方法などについて定期的に話し合い、偏りがないように配慮している。場合によっては、栄養士のアドバイスを受けている。	○	調理師と相談しながら旬の食材を取り入れたり、献立が重ならないよう注意している。また行事や誕生日月の利用者は好きな料理を聞いて取り入れている。			○	
		m	食中毒などの予防のために調理用具や食材等の衛生管理を日常的に行い、安全で新鮮な食材の使用と管理に努めている。	○	調理師の助言を基にまな板の消毒や手洗いの徹底、食材は調味期限内に注意しながら調理している。				

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
18	口腔内の清潔保持	a	職員は、口腔ケアが誤嚥性肺炎の防止につながることを知っており、口腔ケアの必要性、重要性を理解している。	○	口腔ケアが誤嚥性肺炎の防止になると職員に伝えており理解している。	/	/	/	チェックシートは準備していないが、一人ひとりの口腔の状態は欠かさずチェックしている。毎食後利用者の状態に合わせ、口腔内の清潔が保持できるようケアに努めている。入歯は必ず洗浄液に浸し清潔を保っており、利用者が安心して使用している。
		b	利用者一人ひとりの口の中の健康状況(虫歯の有無、義歯の状態、舌の状態等)について把握している。	○	食事中や口腔ケアの際、義歯の状態や歯の確認をしている。	/	/	○	
		c	歯科医や歯科衛生士等から、口腔ケアの正しい方法について学び、日常の支援に活かしている。	○	往診後歯磨き指導や口腔内の管理について助言を頂き、その人に合った方法で対応している。	/	/	/	
		d	義歯の手入れを適切に行えるよう支援している。	◎	毎食後口腔ケアを行い口腔内の清潔に努めている。また夜間は入れ歯洗浄剤を使用している。	/	/	/	
		e	利用者の力を引き出しながら、口の中の汚れや臭いが生じないように、口腔の清潔を日常的に支援している。(歯磨き・入れ歯の手入れ・うがい等の支援、出血や炎症のチェック等)	○	毎食後利用者の状態に合わせて口腔ケアを実施している。	/	/	○	
		f	虫歯、歯ぐきの腫れ、義歯の不具合等の状態をそのままにせず、歯科医に受診するなどの対応を行っている。	◎	本人の痛みの訴えや口腔ケアの時の表情を見て看護師と相談し迅速に歯科医に連絡し受診出来るように努めている。	/	/	/	
19	排泄の自立支援	a	職員は、排泄の自立が生きる意欲や自信の回復、身体機能を高めることにつながることや、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)の使用が利用者の心身に与えるダメージについて理解している。	△	日中は可能な限りトイレを使用していただき、一人ひとりの排泄パターンの把握に努めている。自尊心を気づけないよう声掛けに配慮し自立に向けた支援を提供している。	/	/	/	利用者一人ひとりの排泄パターンを把握し、日中はトイレでの排泄を基本にその人に合った支援に努めている。
		b	職員は、便秘の原因や及ぼす影響について理解している。	○	食物繊維の多い食べ物や寒天ゼリーをおやつに取り入れ工夫している。また体操・散歩・歩行練習など実施し便秘にならないよう努めている。	/	/	/	
		c	本人の排泄の習慣やパターンを把握している。(間隔、量、排尿・排便の兆候等)	○	排便チェック表を基に一人ひとり把握に努めている。チェック表に記録を残し、必要に応じて薬での対応もしている。	/	/	/	
		d	本人がトイレで用を足すことを基本として、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)使用の必要性や適切性について常に見直し、一人ひとりのその時々状態にあった支援を行っている。	△	一人ひとりの状態や排泄パターンや等常に話し合いを行っている。	/	◎	○	
		e	排泄を困難にしている要因や誘因を探り、少しでも改善できる点はないか検討しながら改善に向けた取り組みを行っている。	○	居室にポータブルトイレを配置したり、目の見えにくい方でも、トイレの位置を把握しやすいように、手すりに赤色のビニールテープを貼り分かりやすいように配慮している。	/	/	/	
		f	排泄の失敗を防ぐため、個々のパターンや兆候に合わせて早めの声かけや誘導を行っている。	○	排泄チェック表を使用し一人ひとりの排泄パターンの把握に努めている。また、早めに声をかけたり、こまめに誘導をしている。	/	/	/	
		g	おむつ(紙パンツ・パッドを含む)を使用する場合は、職員が一方的に選択するのではなく、どういう時間帯にどのようなものを使用するか等について本人や家族と話し合い、本人の好みや自分で使えるものを選択できるよう支援している。	×	利用者一人ひとりの排泄パターンを把握しミーティングや申し送り等で相談し利用者に応じた対応を検討している。また変更があった場合には家族に説明し協力して頂けるよう努めている。	/	/	/	
		h	利用者一人ひとりの状態に合わせて下着やおむつ(紙パンツ・パッドを含む)を適時使い分けている。	○	身体の変化・状態によってその都度相談しながら変更し対応している。	/	/	/	
		i	飲食物の工夫や運動への働きかけなど、個々の状態に応じて便秘予防や自然排便を促す取り組みを行っている。(薬に頼らない取り組み)	○	おやつに寒天・ヨーグルトなどを食べて頂き散歩や体操を実施して取り組んでいる。また腹部マッサージも実施している。	/	/	/	
20	入浴を楽しむことができる支援	a	曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、利用者一人ひとりの希望や習慣にそって入浴できるよう支援している。(時間帯、長さ、回数、温度等)。	◎	声掛けをして入浴を決めて頂いている。拒否させた場合は無理強いをせず、時間の変更や日にちの変更をして本人に合わせて実施している。	/	/	◎	入浴の回数は、利用者の希望に沿えられるようになっている。利用者一人ひとりに合わせた入浴時間や湯温にするなど、気持ちよく入浴してもらうよう支援している。
		b	一人ひとりが、くつろいだ気分で入浴できるよう支援している。	○	職員と会話を楽しみながらゆっくり入浴出来るように配慮している。またお湯の温度・入浴時間の配慮をしつつ、日頃話せない想いが聞き取れるよう配慮している。	/	/	/	
		c	本人の力を活かしながら、安心して入浴できるよう支援している。	○	一人ひとりの能力を生かし自分で出来る所はして頂き、届かないと所を補助している。	/	/	/	
		d	入浴を拒む人に対しては、その原因や理由を理解しており、無理強いをせず気持ちよく入浴できるよう工夫している。	○	無理強いをせず時間帯・職員を変更して自然に入れるよう工夫している。また本人の中で入る日を決めている方は出来るだけ尊重している。	/	/	/	
		e	入浴前には、その日の健康状態を確認し、入浴の可否を見極めるとともに、入浴後の状態も確認している。	◎	入浴前には必ずバイタルチェックを行い状態把握に努めている。入浴後は水分補給をして体調の変化を観察している。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
21	安眠や休息の支援	a	利用者一人ひとりの睡眠パターンを把握している。	○	夜間記録に睡眠状況を残しパターンを把握できるように努めている。	/	/	/	夜間安眠できるよう日中はレクリエーションや散歩など、無理のない活動に取り組んでいる。夜中目覚めた時は、職員が寄り添い見守っている。体調等のためやむを得ない場合は、医師の指示のもと睡眠導入剤を使用することもある。
		b	夜眠れない利用者についてはその原因を探り、その人本来のリズムを取り戻せるよう1日の生活リズムを整える工夫や取り組みを行っている。	○	起きる時間・食事の時間等本人のペースに合わせて支援している。	/	/	/	
		c	睡眠導入剤や安定剤等の薬剤に安易に頼るのではなく、利用者の数日間の活動や日中の過ごし方、出来事、支援内容などを十分に検討し、医師とも相談しながら総合的な支援を行っている。	○	夜間の記録や日中の過ごし方を参考にして昼夜逆転にならないように配慮している。主治医より薬が必要と判断が出たときに服薬して頂いている。	/	/	/	
		d	休息や昼寝等、心身を休める場面が個別に取れるよう取り組んでいる。	○	横になって昼寝・休息の時間を設けている。	/	/	/	
22	電話や手紙の支援	a	家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	○	家族から電話がかかってきたら居室でゆっくり話す時間を設けている。また、利用者から家族に連絡したい場合は事前に都合の良い時をお伺いしたり配慮している。	/	/	/	
		b	本人が手紙が書けない、電話はかけられないと決めつけず、促したり、必要な手助けをする等の支援を行っている。	×	家族・知人からの手紙は本人にお渡ししているが今の所返信する事は少ない。	/	/	/	
		c	気兼ねなく電話できるよう配慮している。	○	携帯電話を所持している利用者もおられ気兼ねなく話をされている。また電話の希望があれば事業所の電話で家族に連絡している。	/	/	/	
		d	届いた手紙や葉書をそのままにせず音信がとれるように工夫している。	×	一人ひとりお渡しして伝えているが返信することは今の所少ない。	/	/	/	
		e	本人が電話をかけることについて家族等に理解、協力をしてもらうとともに、家族等からも電話や手紙をくれるようお願いしている。	○	入所時に協力依頼の説明をし同意して頂いている。実際電話をかけるときには、事前に都合の良い時間をお伺い対応させていただいている。	/	/	/	
23	お金の所持や使うことの支援	a	職員は本人がお金を所持すること、使うことの意味や大切さを理解している。	△	外出の時に買い物をする際には欲しい物を自分で選んで購入している。	/	/	/	
		b	必要物品や好みの買い物に出かけ、お金の所持や使う機会を日常的につくっている。	△	日用品・服と一緒に買い物に行く機会や外食に行く機会を設けている。	/	/	/	
		c	利用者が気兼ねなく安心して買い物ができるよう、日頃から買い物先の理解や協力を得る働きかけを行っている。	○	車いす対応のトイレが設置あいてあるか店舗の確認を事前にしてから安心して買い物を楽しんでもらえるよう配慮している。	/	/	/	
		d	「希望がないから」「混乱するから」「失くすから」などと一方的に決めてしまうのではなく、家族と相談しながら一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	○	家族と相談し自分でお金を持っている方もいる。外出の際そのお金で購入する機会もある。	/	/	/	
		e	お金の所持方法や使い方について、本人や家族と話し合っている。	○	紛失等のリスクも相談している。また一人ひとり出納帳を作成し家族にお金の流れが分かるよう配慮している。	/	/	/	
		f	利用者が金銭の管理ができない場合には、その管理方法や家族への報告の方法などルールを明確にしており、本人・家族等の同意を得ている。(預り金規程、出納帳の確認等)。	○	一人ひとり出納帳を作成し家族にお金の流れが分かるように工夫している。また面会の時に出納帳にサインして頂いたり、毎月出納帳コピーと日常の様子を手紙にして配布している。	/	/	/	
24	多様なニーズに応える取り組み		本人や家族の状況、その時々ニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	○	利用者の希望・要望に応えられるよう同系列施設の行事等に参加したり、外出支援を行っている。	◎	/	○	家族の協力を得ながら、月2回の受診や法人施設行事への参加など、利用者の要望等に応じた外出支援に努めている。



項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
(3)生活環境づくり									
25	気軽に入れる 玄関まわり等の配慮		利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、気軽に出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	△	玄関先にプランターで花や野菜を植えており、利用者と一緒に水やりや世話をしている。	◎	○	○	玄関入口が通りの反対の北側で分かりにくいいため、南側にきちんとわかりやすく貼り紙がある。利用者が心を込めて作ったビーズ作品が複数点飾られているなど、家族等は来所するのが楽しみになっている。
26	居心地の良い 共用空間づくり	a	共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、家庭的な雰囲気有しており、調度や設備、物品や装飾も家庭的で、住まいとしての心地良さがある。(天井や壁に子供向けの飾りつけをしていたり、必要なものが置いていない殺風景な共用空間等、家庭的な雰囲気をそぐような設えになっていないか等。)	△	季節に合わせて飾り物を変えたり、外出や行事の写真を掲示している。	○	○	○	共用空間の壁にはコルクボードに利用者の写真が飾られている。2階入口には利用者の似顔絵を飾っている。トイレの手すりは赤色テープでらせん状に巻かれ、利用者への配慮が伺える。足元には物品を置かないよう整理整頓され、掃除も行き届き気持ちがいいため、長時間でもゆっくり過ごすことができる。テーブルの上には季節の花が常に飾られ、来所者の心を和ませてくれる。
		b	利用者にとって不快な音や光、臭いがないように配慮し、掃除も行き届いている。	△	毎日掃除・整理整頓をしている。眩しくないようブラインドの配慮やテレビの音に注意している。	/	/	/	
		c	心地よさや能動的な言動を引き出すために、五感に働きかける様々な刺激(生活感や季節感を感じるもの)を生活空間の中に採り入れ、居心地よく過ごせるよう工夫している。	○	天気の良い日には窓際のソファに座り日光浴を楽しまれたり、季節に合わせて飾りものを変え写真も掲示している。	/	/	/	
		d	気の合う利用者同士で思い思いに過ごせたり、人の気配を感じながらも独りになれる居場所の工夫をしている。	△	利用者一人ひとり安心して過ごせるよう活動を通じて交流を深め、リビングで過ごして頂けるよう工夫している。	/	/	/	
		e	トイレや浴室の内部が共用空間から直接見えないよう工夫している。	○	共有空間からトイレや浴室が見えない作りになっている。	/	/	/	
27	居心地良く過ごせる 居室の配慮		本人や家族等と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	○	今まで使っていた物を使用して馴染みの暮らしが継続していけるよう工夫している。	◎	/	○	居室には人形や書道作品、家族の写真などが置かれ家族の協力のもと、居心地よい最高の空間が作られている。
28	一人ひとりの力が 活かせる環境づくり	a	建物内部は利用者一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように配慮や工夫をしている。	○	手すりや介護用品を活用して移動できるように配慮している。利用者一人ひとり安心・安全の生活が送れるように配慮している。	/	/	○	居室の入口に目印として、小物を壁に飾るなど利用者それぞれが工夫している。トイレは目の高さで「トイレ」と優しい色使いで分かりやすく表示されていたり、手すりには赤色ビニールを巻くなど工夫し、利用者一人ひとりの安全を確保し、安心して生活できるよう配慮されている。
		b	不安や混乱、失敗を招くような環境や物品について検討し、利用者の認識間違いや判断ミスを最小にする工夫をしている。	△	混乱しないように名目を付けたりして安心した生活が送れるように工夫している。	/	/	/	
		c	利用者の活動意欲を触発する馴染みの物品が、いつでも手に取れるように生活空間の中にさりげなく置かれている。(ほうき、裁縫道具、大工道具、園芸用品、趣味の品、新聞・雑誌、ポット、急須・湯飲み・お茶の道具等)	○	湯のみや新聞紙等は手の届く所に置いている。分らず触ってしまう利用者もいるのでこちらで管理するものがある。	/	/	/	
29	鍵をかけない ケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が、居室や日中にユニット(棟)の出入り口、玄関に鍵をかけることの弊害を理解している。(鍵をかけられ出られない状態で暮らしていることの異常性、利用者にもたらす心理的不安や閉塞感・あきらめ・気力の喪失、家族や地域の人にもたらす印象のデメリット等)	○	鍵をかけていることでの利用者の変化や弊害のリスクについては話し合いの場を設けたりする事で職員の理解を深めている。	×	×	△	鍵をかけないで利用者を見守ることや、鍵をかけることによる利用者の心理的弊害については、職員皆が理解し共有している。日常利用者の安全確保に鑑み、来客等がある日以外玄関は施錠しているが、職員が常に利用者の行動を見守り、鍵をかけず自由に外出できるような支援を期待したい。
		b	鍵をかけない自由な暮らしについて家族の理解を図っている。安全を優先するために施錠を望む家族に対しては、自由の大切さと安全確保について話し合っている。	○	家族には夜間帯は防犯のこともあるため鍵について話をしている。日中帯は施錠を望まれていないためしていない。	/	/	/	
		c	利用者の自由な暮らしを支え、利用者や家族等に心理的圧迫をもたらさないよう、日中は玄関に鍵をかけなくてもすむよう工夫している(外出の察知、外出傾向の把握、近所の理解・協力の促進等)。	○	外出が好きな利用者が多いため散歩等を日課にしている方が多くなるべく出ようようにしている。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
(4) 健康を維持するための支援									
30	日々の健康状態や病状の把握	a	職員は、利用者一人ひとりの病歴や現病、留意事項等について把握している。	○	利用者一人一人の状態が把握出来るように情報を集めその都度確認をしている。				
		b	職員は、利用者一人ひとりの身体状態の変化や異常のサインを早期に発見できるように注意しており、その変化やサインを記録に残している。	○	状態に変化が見られた時必ずバイタルチェックをして記録に残している。また看護師に連絡に早期対応に努めている。				
		c	気になることがあれば看護職やかかりつけ医等にいつでも気軽に相談できる関係を築き、重度化の防止や適切な入院につなげる等の努力をしている。	○	常に看護師と連絡体制は取れており細かい変化でもすぐ報告出来るようにしている。				
31	かかりつけ医等の受診支援	a	利用者一人ひとりのこれまでの受療状況を把握し、本人・家族が希望する医療機関や医師に受診できるよう支援している。	◎	入所の際には今までのかかりつけ医について話を聞き、施設のかかりつけ医について説明し、希望であれば引き続き今までのかかりつけ医に診て頂いている。	◎			
		b	本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	○	本人から主治医に状態を話していただき、看護師が不足分を説明している。普段の状態を知っていただき適切な処置を行っている。				
		c	通院の仕方や受診結果の報告、結果に関する情報の伝達や共有のあり方等について、必要に応じて本人や家族等の合意を得られる話し合いを行っている。	◎	異変を含めて本人の状態が変わったことがあれば早急に連絡し報告をしている。その都度丁寧に説明し納得させている。				
32	入退院時の医療機関との連携、協働	a	入院の際、特にストレスや負担を軽減できる内容を含む本人に関する情報提供を行っている。	○	入院の場合は入居の際のアセスメント票や救急用の用紙を持ち普段の様子をスムーズに伝えるよう取り組んでいる。				
		b	安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。	○	病院に見舞いに行く際に今の現状や退院の見込み・施設に戻ってから注意する事など聞く機会を設けている。				
		c	利用者の入院時、または入院した場合に備えて日頃から病院関係者との関係づくりを行っている。	○	主治医とは細かい変化があった場合でも連絡し状態把握に努めている。				
33	看護職との連携、協働	a	介護職は、日常の関わりの中で得た情報や気づきを職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談している。看護職の配置や訪問看護ステーション等との契約がない場合は、かかりつけ医や協力医療機関等に相談している。	◎	変化に気づき看護師に報告を必ず行っている。看護師の助言を元に職員全員が変化・対応方法等の情報を共有し統一したケアが行えるように努めている。また、異常が見られた時は看護師と主治医が連絡体制が取れているのですぐ報告をし受診体制を取っている。				
		b	看護職もしくは訪問看護師、協力医療機関等に、24時間いつでも気軽に相談できる体制がある。	◎	看護師を配置しており、24時間いつでも相談できる体制を作っている。				
		c	利用者の日頃の健康管理や状態変化に応じた支援が適切にできるよう体制を整えている。また、それにより早期発見・治療につなげている。	○	日々のバイタルチェックや状態を看護師に報告し利用者の情報共有が密に図れている。				
34	服薬支援	a	職員は、利用者が使用する薬の目的や副作用、用法や用量について理解している。	○	薬の作用・内容を把握出来るように努めている。				
		b	利用者一人ひとりが医師の指示どおりに服薬できるよう支援し、飲み忘れや誤薬を防ぐ取り組みを行っている。	○	利用者の名前・朝昼夕・日付を声に出して読み上げてから服薬介助を行う。また飲み込みを確認している。				
		c	服薬は本人の心身の安定につながっているのか、また、副作用(周辺症状の誘発、表情や活動の抑制、食欲の低下、便秘や下痢等)がないかの確認を日常的に行っている。	○	薬の変更・増量があった場合は申し送りノートに記入し情報共有を図り、状態に変化があるか記録に残すようにしている。				
		d	漫然と服薬支援を行うのではなく、本人の状態の経過や変化などを記録し、家族や医師、看護職等に情報提供している。	○	状態に変化が見られた場合主治医に連絡し迅速に対応している。				

愛媛県グループホーム斎院の杜

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
35	重度化や終末期への支援	a	重度化した場合や終末期のあり方について、入居時、または状態変化の段階ごとに本人・家族等と話し合いを行い、その意向を確認しながら方針を共有している。	◎	契約前の「重度化に関する指針」を説明するときに本人・家族が納得してから同意書にサインをして頂いている。また、状態の変化があった時には迅速に連絡できるよう努めている。	/	/	/	利用者や家族、主治医、職員を交え、看取りについて適宜話し合うようにしており、利用者や家族の意向に基づき支援するよう共有できている。
		b	重度化、終末期のあり方について、本人・家族等だけでなく、職員、かかりつけ医・協力医療機関等関係者で話し合い、方針を共有している。	○	主治医と適時相談をし本人・家族の意向を伝えそそぎを基に支援の方針を決め共有している。	○	/	○	
		c	管理者は、終末期の対応について、その時々職員の思いや力量を把握し、現状ではどこまでの支援ができるかの見極めを行っている。	△	本人と家族の希望や主治医の助言を元に看護師、ケアマネと共に今出来ることを話し合いケアに努めている。また、気取りの研修に参加し知識を深めると共に不安な気持ちを取り除けるよう努めている。	/	/	/	
		d	本人や家族等に事業所の「できること・できないこと」や対応方針について十分な説明を行い、理解を得ている。	△	「重度化の指針」の時に事業所で出来る事・出来ない事を説明してから同意書にサインをして頂いているので理解して頂いている。	/	/	/	
		e	重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、家族やかかりつけ医など医療関係者と連携を図りながらチームで支援していく体制を整えている。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	○	本人と家族の意見・要望を密に相談を行い、希望する医療機関で受診出来るように支援している。また、主治医による往診が二週間に一回あり、近況報告が行っている。緊急時には迅速に対応できるよう連携も整っている。	/	/	/	
		f	家族等への心理的支援を行っている。(心情の理解、家族間の事情の考慮、精神面での支え等)	○	来訪時日々の様子についてお伝えしている。また会話の中から不安に思っている事を汲み取るよう努めている。	/	/	/	
36	感染症予防と対応	a	職員は、感染症(ノロウイルス、インフルエンザ、白癬、疥癬、肝炎、MRSA等)や具体的な予防策、早期発見、早期対応策等について定期的に学んでいる。	○	看護師と連携し、ミーティングや申し送りの時に勉強・指導を行っている。また感染症マニュアルを作成し統一した対処・予防をしている。	/	/	/	
		b	感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、万が一、感染症が発生した場合に速やかに手順にそった対応ができるよう日頃から訓練を行うなどして体制を整えている。	○	感染症のセットも常に準備しており迅速に対応できるようにしている。	/	/	/	
		c	保健所や行政、医療機関、関連雑誌、インターネット等を通じて感染症に対する予防や対策、地域の感染症発生状況等の最新情報を入手し、取り入れている。	○	流行りの季節になると最新の情報を集め予防・対策に努めている。	/	/	/	
		d	地域の感染症発生状況の情報収集に努め、感染症の流行に随時対応している。	○	地域や系列施設での流行に合わせて予防・対策等の対応をしている。	/	/	/	
		e	職員は手洗いやうがいなど徹底して行っており、利用者や来訪者等についても清潔が保持できるよう支援している。	◎	手洗い・うがい・アルコール消毒を徹底しており、予防対策としてマスク等も活用している。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
<b>II. 家族との支え合い</b>									
37	本人とともに支え合う 家族との関係づくりと支援	a	職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽をともにし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	△	利用者の近況報告や行事について報告している。家族との会話の時間を大切にしている。				家族には行事の案内をしているが、参加する家族は限られているため、今後は家族全員の参加を目標に努力して欲しい。手紙や電話で家族に定期的に利用者のことを報告すると共にホームだよりで行事の様子を写真入りで記事にしたり、次の月の行事予定を詳しく書いてお知らせしている。職員の異動については常に報告し、設備改修についても家族に説明を予定している。職員は家族が話しかけやすいような関係が築けるよう、来訪時には利用者の近況報告をするなど、信頼関係の構築に努めている。
		b	家族が気軽に訪れ、居心地よく過ごせるような雰囲気づくりや対応を行っている。(来やすい雰囲気、関係再構築の支援、湯茶の自由利用、居室への宿泊のしやすさ等)	○	いつでも面会出来るようにしている。家族とゆっくり過ごせるよう配慮している。				
		c	家族がホームでの活動に参加できるように、場面や機会を作っている。(食事づくり、散歩、外出、行事等)	△	家族会や行事に参加して頂いている。夏祭りでは家族も一緒に炭坑節を踊って下さる。	◎		△	
		d	来訪する機会が少ない家族や疎遠になってしまっている家族も含め、家族の来訪時や定期的な報告などにより、利用者の暮らしぶりや日常の様子を具体的に伝えている。「たより」の発行・送付、メール、行事等の録画、写真の送付等)	△	季節ごとに事業所たよりを全家族に配布して近況報告を行っている。ケアプランの送付と一緒に日々の様子もお伝えしている。	◎		○	
		e	事業所側の一方的な情報提供ではなく、家族が知りたいことや不安に感じていること等の具体的内容を把握して報告を行っている。	×	面会に来られる家族と遠方の家族がいるので近況報告や伝達のみの場合もある。				
		f	これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係を築いていけるように支援している。(認知症への理解、本人への理解、適切な接し方・対応等についての説明や働きかけ、関係の再構築への支援等)	○	本人の状況をよく話し、対応している内容を説明している。また、疑問点や不安点はしっかりと話し合いを行い解決に努めている。				
		g	事業所の運営上の事柄や出来事について都度報告し、理解や協力を得るようにしている。(行事、設備改修、機器の導入、職員の異動・退職等)	△	事業所便りの中に今後の予定も報告している。運営の変更等は手紙や口頭で家族に説明している。	○		○	
		h	家族同士の交流が図られるように、様々な機会を提供している。(家族会、行事、旅行等への働きかけ)	△	運営推進会議・行事・家族会の案内を配布している。昨年から家族会の開催もしている。				
		i	利用者一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	○	本人の身に起こるリスクを家族に多視点で意見や対応策を伝え、実現に向けて努めている。				
		j	家族が、気がかりなことや、意見、希望を職員に気軽に伝えたり相談したりできるように、来訪時の声かけや定期的な連絡等を積極的に行っている。	○	面会時の挨拶と本人の様子等を伝えと共に、家族との会話をもち関係が築いていけるよう努めている。			○	
38	契約に関する説明と納得	a	契約の締結、解約、内容の変更等の際は、具体的な説明を行い、理解、納得を得ている。	○	契約に関してはその都度内容を読み上げたり心配な事不安な事をゆっくり解決しながら納得して頂いている。				
		b	退居については、契約に基づくとともにその決定過程を明確にし、利用者や家族等に具体的な説明を行った上で、納得のいく退居先に移れるように支援している。退居事例がない場合は、その体制がある。	○	退居に至る場合もその理由を丁寧に説明に滞ることなく次に移れるよう支援している。				
		c	契約時及び料金改定時には、料金の内訳を文書で示し、料金の設定理由を具体的に説明し、同意を得ている。(食費、光熱水費、その他の実費、敷金設定の場合の償却、返済方法等)	○	料金改定時には文書と口頭にてその内容について説明を行い、同意を得ている。				

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
<b>Ⅲ.地域との支え合い</b>									
39	地域とのつきあいやネットワークづくり ※文言の説明 地域:事業所が所在する市町の日常生活圏域、自治会エリア	a	地域の人に対して、事業所の設立段階から機会をつくり、事業所の目的や役割などを説明し、理解を図っている。	△	町内会長をはじめ地域の方々には設立にあたり説明をしている。また運営推進会議の中でも役に立てること等お伺いしている。	/	○	/	町内会に入会し回覧も回ってくるため、地区の行事を把握することができる。地域とのかかわりについては、受け身ではなく進んで働きかけていこうと代表者や管理者は考えているが、手探りの段階である。新年のあいさつや運営推進会議の出席のお願いなど足を運んで一つひとつ努力を積み重ね、地域に根差した事業所になれるよう期待したい。
		b	事業所は、孤立することなく、利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、地域の人たちに対して日頃から関係を深める働きかけを行っている。(日常的なあいさつ、町内会・自治会への参加、地域の活動や行事への参加等)	○	散歩やゴミだしの時に近隣の方に挨拶をして関係が築けるように努めている。また事業所の行事案内をして参加して頂けるよう心掛けている。	/	×	△	
		c	利用者を見守ったり、支援してくれる地域の人たちが増えている。	×	事業所の行事に参加して下さる地域の方がいる。	/	/	/	
		d	地域の方が気軽に立ち寄り遊びに来たりしている。	×	近隣の方が野菜など持って来てくださりよくして頂いている。	/	/	/	
		e	隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらうなど、日常的なおつきあいをしている。	△	近くにごみ置き場があるので挨拶をする機会がある。また普段の散歩の時に挨拶をして顔を覚えていただけるようにしている。	/	/	/	
		f	近隣の住民やボランティア等が、利用者の生活の拡がりや充実を図ることを支援してくれるよう働きかけを行っている。(日常的な活動の支援、遠出、行事等の支援)	×	今の所近隣者の施設の目的や取り組みを知っていただくために運営推進会議の案内を配布や声掛けしか出来ていない。	/	/	/	
		g	利用者一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	△	三味線のボランティアや訪問理容の交流を続けている。	/	/	/	
		h	地域の人たちや周辺地域の諸施設からも協力を得ることができるよう、日頃から理解を拡げる働きかけや関係を深める取り組みを行っている(公民館、商店・スーパー・コンビニ、飲食店、理美容店、福祉施設、交番、消防、文化・教育施設等)。	×	馴染みのある関係者等は来ていただくことが殆どで、こちらから行く事は少ない。	/	/	/	
40	運営推進会議を活かした取り組み	a	運営推進会議には、毎回利用者や家族、地域の人等の参加がある。	△	地域の方・家族が何名か参加して下さるが同じメンバーが多い	○	/	△	参加者が少なく限られているため、今後は利用者にも参加してもらうなど、参加者が固定化しないよう取り組んで欲しい。外部評価や目標達成計画についての報告を行い、話し合う機会を設け意見等をもらい運営に活かしている。議事録には出席者の意見が細かく記録され、意見が出しやすい雰囲気であることがわかる。運営推進会議で出たアドバイスは、日々の利用者の生活に反映されるよう取り組んでいる。
		b	運営推進会議では、利用者やサービスの実績、評価への取り組み状況(自己評価・外部評価の内容、目標達成計画の内容と取り組み状況等)について報告している。	○	事業所便りを作成し参加者へ行事報告や取り組みについて説明している。外部評価後の運営推進会議の中で評価結果や目標達成計画について話し合う時間を設けている。	/	/	○	
		c	運営推進会議では、事業所からの一方的な報告に終わらず、会議で出された意見や提案等を日々の取り組みやサービス向上に活かし、その状況や結果等について報告している。	○	参加者に投げかけを行い、感想や要望等を聞くようにしている。地域について聞く事が多く、事業所が地域の役に立てよう話し合う機会を設けている。	/	◎	○	
		d	テーマに合わせて参加メンバーを増やしたり、メンバーが出席しやすい日程や時間帯について配慮・工夫をしている。	△	参加メンバーはほとんど同じであり、時間は平日午前中に開催している。	/	/	○	
		e	運営推進会議の議事録を公表している。	○	運営推進会議報告書を家族に配布している。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
<b>IV.より良い支援を行うための運営体制</b>									
41	理念の共有と実践	a	地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者、管理者、職員は、その理念について共通認識を持ち、日々の実践が理念に基づいたものになるよう日常的に取り組んでいる。	○	介護業務をする上で理念の基づき、家庭的なホームを目指して取り組んでいる。また目に入る所に理念を飾り、統一したケアが行えるように実践している。	/	/	/	
		b	利用者、家族、地域の人たちにも、理念をわかりやすく伝えている。	△	玄関や共有スペースに飾っている。また入居案内に時に理念を掲示しているパンフレットを配布している。	○	○	/	
42	職員を育てる取り組み ※文言の説明 代表者：基本的には運営している法人の代表者であり、理事長や代表取締役が該当するが、法人の規模によって、理事長や代表取締役をその法人の地域密着型サービス部門の代表者として扱うのは合理的ではないと判断される場合、当該部門の責任者などを代表者として差し支えない。したがって、指定申請書に記載する代表者と異なることはありうる。	a	代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、計画的に法人内外の研修を受けられるよう取り組んでいる。	○	研修の案内を掲示し、参加を促している。また、外部の研修や勉強会に力量に合った職員を選出し、参加する事でスキルアップにつながるよう支援している。	/	/	/	代表者は年1回ストレスチェックを行い、介護支援専門員が職員と個別に面話し、原因になる要因を聞き取り方針も一緒に考えている。職員は年齢差はあってもお互い仲が良く、働きやすい職場と感じている。
		b	管理者は、OJT(職場での実務を通して行う教育・訓練・学習)を計画的に行い、職員が働きながらスキルアップできるよう取り組んでいる。	△	ミーティング等で職員間で話し合いが出来るように努めている。	/	/	/	
		c	代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	○	資格習得や研修参加によって役割や役職を設け意欲向上が図れるように心掛けている。	/	/	/	
		d	代表者は管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互研修などの活動を通して職員の意識を向上させていく取り組みをしている。(事業者団体や都道府県単位、市町単位の連絡会などへの加入・参加)	○	同系列内の行事(祭り・そうめん流し・餅つき)に参加し職員・利用者同士交流を図っている。同業者との交流は外部の研修で情報交換を図っている。	/	/	/	
		e	代表者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	○	毎年ストレスチェックを行い今の状態を把握に努めている。	○	○	○	
43	虐待防止の徹底	a	代表者及び全ての職員は、高齢者虐待防止法について学び、虐待や不適切なケアに当たるのは具体的にどのような行為なのかを理解している。	◎	毎年外部の研修に参加しミーティングで社内研修を行い知識向上に努めている。普段の介助・声掛け等が該当していないか話し合いを行っている。	/	/	/	年1回の研修を職員は受講し、内部研修として資料を全職員に配布し説明し共有している。職員同士注意し合ったり、話し合える良い関係が築けており業務に活かしている。
		b	管理者は、職員とともに日々のケアについて振り返ったり話し合ったりする機会や場をつくっている。	○	利用者のケアについて話し合いを行っている。職員も利用者主体で考え反映できるように取り組んでいる。	/	/	/	
		c	代表者及び全ての職員は、虐待や不適切なケアが見逃されることがないよう注意を払い、これらの行為を発見した場合の対応方法や手順について知っている。	○	ミーティングを時に注意喚起を行っている。また、各職員間で話し合えるように支援している。	/	/	○	
		d	代表者、管理者は職員の疲労やストレスが利用者へのケアに影響していないか日常的に注意を払い、点検している。	○	定期的と勤務形態(夜勤回数等)や勤務内容について話し合っている。毎年ストレスチェックを行い心身の状態を把握に努めている。	/	/	/	
44	身体拘束をしないケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」や「緊急やむを得ない場合」とは何かについて正しく理解している。	○	毎年外部の研修に参加し知識を深めている。また代表を中心に身体拘束廃止に向けて話し合いを行っている。	/	/	/	
		b	どのようなことが身体拘束に当たるのか、利用者や現場の状況に照らし合わせて点検し、話し合う機会をつくっている。	○	日常の中で不適切なケア・声掛けになっていないか一人ひとり考え取り組んでいる。	/	/	/	
		c	家族等から拘束や施設への要望があっても、その弊害について説明し、事業所が身体拘束を行わないケアの取り組みや工夫の具体的内容を示し、話し合いを重ねながら理解を図っている。	○	家族から身体拘束の要望はないが、身体拘束のリスク等の説明をしている。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
45	権利擁護に関する制度の活用	a	管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学び、それぞれの制度の違いや利点などを理解している。	×	研修に参加し知識を深めているが具体的な内容は分からない職員もいる。	/	/	/	
		b	利用者や家族の現状を踏まえて、それぞれの制度の違いや利点なども含め、パンフレット等で情報提供したり、相談にのる等の支援を行っている。	×	外部・社内研修で知識を深めているが家族からの相談等もなく説明を行っていない。	/	/	/	
		c	支援が必要な利用者が制度を利用できるよう、地域包括支援センターや専門機関(社会福祉協議会、後見センター、司法書士等)との連携体制を築いている。	×	外部の研修に参加して知識を深めているが実際に連絡体制は取れていない。	/	/	/	
46	急変や事故発生時の備え・事故防止の取り組み	a	怪我、骨折、発作、のど詰まり、意識不明等利用者の急変や事故発生時に備えて対応マニュアルを作成し、周知している。	△	統一した対応が出来るようにマニュアルを作成しているが、いざ起こった場合スムーズに対応できるか分からない。	/	/	/	
		b	全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	△	看護師による指導・勉強会をしているがすべての応急手当について理解出来ているとは言えない。	/	/	/	
		c	事故が発生した場合の事故報告書はもとより、事故の一手手前の事例についてもヒヤリハットにまとめ、職員間で検討するなど再発防止に努めている。	△	ヒヤリハット・事故報告書を作成しており、繰り返し起こさないよう話し合いを行っている。また未然に防げるよう努めている。	/	/	/	
		d	利用者一人ひとりの状態から考えられるリスクや危険について検討し、事故防止に取り組んでいる。	○	一人ひとりのリスクについてミーティングで話し合いを未然に防ぐ事と対応についても助言もある。	/	/	/	
47	苦情への迅速な対応と改善の取り組み	a	苦情対応のマニュアルを作成し、職員はそれを理解し、適宜対応方法について検討している。	△	マニュアルを作成し意識共有を図っている。十分に対応方法全職員に浸透出来ていない。	/	/	/	
		b	利用者や家族、地域等から苦情が寄せられた場合には、速やかに手順に沿って対応している。また、必要と思われる場合には、市町にも相談・報告等している。	○	マニュアルの中に手順を掲載しており迅速に対応できるよう目指している。苦情用の様式もあり、記録に残すよう努めている。	/	/	/	
		c	苦情に対しての対策案を検討して速やかに回答するとともに、サービス改善の経過や結果を伝え、納得を得ながら前向きな話し合いと関係づくりを行っている。	○	苦情があった場合職員全員で考え解決に向けて取り組み、経過観察・結果も記録に残す。	/	/	/	
48	運営に関する意見の反映	a	利用者が意見や要望、苦情を伝えられる機会をつくっている。(法人・事業所の相談窓口、運営推進会議、個別に訊く機会等)	○	外出の時にゆっくり話す時間・場所を設けて意見・要望が聞き取れる環境作りを目指している。	/	/	○	利用者と1対1になれる外出時や入浴時にいろいろ話を聞いている。家族には来訪時や家族会で要望を聞いている。職員は管理者に意見を出しやすい関係が築けおり、気軽に何でも相談している。管理者は2ユニットを行ったり来たりし、両ユニットの状況を常に見守っており、職員は安心して業務に専念することができる。
		b	家族等が意見や要望、苦情を伝えられる機会をつくっている。(法人・事業所の相談窓口、運営推進会議、家族会、個別に訊く機会等)	△	家族会を年2回開催している。事前にアンケートを作成し家族の思い・要望を記入して頂き職員も目を通し家族の意見・要望の情報共有している。	◎	/	○	
		c	契約当初だけではなく、利用者・家族等が苦情や相談ができる公的な窓口の情報提供を適宜行っている。	△	入所後家族から相談があった時は上司に連絡・相談し市町村も窓口もお伝えしている。	/	/	/	
		d	代表者は、自ら現場に足を運ぶなどして職員の意見や要望・提案等を直接聞く機会をつくっている。	○	ミーティング時に意見を言いやすい環境作りを目指している。また、普段の会話の中から話し合う機会を設けている。	/	/	/	
		e	管理者は、職員一人ひとりの意見や提案等を聴く機会を持ち、ともに利用者本位の支援をしていくための運営について検討している。	○	ミーティングの時に意見が出やすい環境作りを目指している。また、職員も利用者主体で考え、思いが反映できるように努めている。	/	/	○	

愛媛県グループホーム斎院の杜

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
49	サービス評価の取り組み	a	代表者、管理者、職員は、サービス評価の意義や目的を理解し、年1回以上全員で自己評価に取り組んでいる。	△	自己評価は一年に一回実施しているが、十分に時間を設けることが出来ていない。	/	/	/	外部評価結果については、事業所の今後の取組み等を含め、常に家族に報告し率直な意見や提案等をもらい、サービス向上に活かしている。
		b	評価を通して事業所の現状や課題を明らかにするとともに、意識統一や学習の機会として活かしている。	△	評価を通じて見直しをする所が多くミーティングで話し合い、改善に向けて取り組む。	/	/	/	
		c	評価(自己・外部・家族・地域)の結果を踏まえて実現可能な目標達成計画を作成し、その達成に向けて事業所全体で取り組んでいる。	○	出来る事をミーティングで話し合い実現に向けて取り組んでいる。	/	/	/	
		d	評価結果と目標達成計画を市町、地域包括支援センター、運営推進会議メンバー、家族等に報告し、今後の取り組みのモニターをしてもらっている。	○	評価後運営推進会議の時に評価結果や目標達成経過の報告をしている。今後の取り組みについて助言を頂いている。	×	△	○	
		e	事業所内や運営推進会議等にて、目標達成計画に掲げた取り組みの成果を確認している。	○	家族会や個別ケアなど目標達成項目についてその都度報告している。ミーティングで振り返り良くしていけるよう話し合いの機会を設けている。	/	/	/	
50	災害への備え	a	様々な災害の発生を想定した具体的な対応マニュアルを作成し、周知している。(火災、地震、津波、風水害、原子力災害等)	○	地震・火災・風水害のマニュアルを作成している。また、いつでも確認できるように掲示している。	/	/	/	年2回の避難訓練は実施しているが、地域との連携等が不十分なため、運営推進会議と同時に開催するなど工夫し、地域との関係構築に努めて欲しい。
		b	作成したマニュアルに基づき、利用者が、安全かつ確実に避難できるよう、さまざまな時間帯を想定した訓練を計画して行っている。	△	日中を想定した避難訓練が多く、夜間想定回数は少ない。これから力を入れていきたい所である。	/	/	/	
		d	消火設備や避難経路、保管している非常用食料・備品・物品類の点検等を定期的に行っている。	○	避難経路は見えやすい所に掲示していると共に避難訓練実施の時に避難経路の確認をしている。	/	/	/	
		e	地域住民や消防署、近隣の他事業所等と日頃から連携を図り、合同の訓練や話し合う機会をつくるなど協力・支援体制を確保している。	×	近隣との施設と話し合う機会を作れていないが西地区の介護施設連絡会に参加し関係づくりを目指している。	×	◎	△	
		f	災害時を想定した地域のネットワークづくりに参加したり、共同訓練を行うなど、地域の災害対策に取り組んでいる。(県・市町、自治会、消防、警察、医療機関、福祉施設、他事業所等)	△	運営推進会議に防災訓練を兼ね合わせ家族・地域の方にも参加出来るように努めている。	/	/	/	
51	地域のケア拠点としての機能	a	事業所は、日々積み上げている認知症ケアの実践力を活かして地域に向けて情報発信したり、啓発活動等に取り組んでいる。(広報活動、介護教室等の開催、認知症サポーター養成研修や地域の研修・集まり等での講師や実践報告等)	×	運営推進会議の中で研修発表の機会を設けているが地域に向けての情報発信等は行っていない。	/	/	/	近所の方が相談に来ることもあるが、件数等も少ないので、今後は回覧板等で相談支援ができる事業所であることの広報を積極的に行い、地域の相談拠点となる事業所を目指して欲しい。地区の文化祭や行事などに参加し、事業所のことを地域住民にも知ってもらい、市や地域包括支援センターなどとも連携し、イベントや地域活動等の取組みが望まれる。
		b	地域の高齢者や認知症の人、その家族等への相談支援を行っている。	×	運営推進会議や夏祭りに参加された地域の方には声をかけて相談等が聞けるように努めている。	/	△	△	
		c	地域の人たちが集う場所として事業所を解放、活用している。(サロン・カフェ・イベント等交流の場、趣味活動の場、地域の集まりの場等)	×	近隣の方に夏祭りの案内状を配布し参加して頂けるように努めているが地域の方々が集えるような環境作りは出来ていない。	/	/	/	
		d	介護人材やボランティアの養成など地域の人材育成や研修事業等の実習の受け入れに協力している。	×	代表を中心にボランティアの受け入れ体制を整えているが今の所受け入れは出来ていない。	/	/	/	
		e	市町や地域包括支援センター、他の事業所、医療・福祉・教育等各関係機関との連携を密にし、地域活動を協働しながら行っている。(地域イベント、地域啓発、ボランティア活動等)	△	散歩の時に近隣の方と挨拶をして顔なじみの関係が作れるよう目指している。地域のイベント・地区の研修に参加している。	/	/	△	



(別表第1)

## サービス評価結果表

### サービス評価項目

(評価項目の構成)

#### I. その人らしい暮らしを支える

(1) ケアマネジメント

(2) 日々の支援

(3) 生活環境づくり

(4) 健康を維持するための支援

#### II. 家族との支え合い

#### III. 地域との支え合い

#### IV. より良い支援を行うための運営体制

ホップ 職員みんなで自己評価!  
 ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!  
 ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー  
 “愛媛県地域密着型サービス評価”

#### 【外部評価実施評価機関】※評価機関記入

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	愛媛県松山市持田町3丁目8-15
訪問調査日	平成29年10月30日

#### 【アンケート協力数】※評価機関記入

家族アンケート	(回答数) 7名	(依頼数) 18名
地域アンケート回答数	2名	

#### ※事業所記入

事業所番号	3870105750
事業所名	グループホーム齋院の杜
(ユニット名)	2F
記入者(管理者)	
氏名	嶋屋 浩典
自己評価作成日	平成29年 10 月 1 日

<p>【事業所理念】</p> <p>1.入居者に対しては、常に一人ひとりの人格を尊重し、人生の先輩として敬意あふれる環境の下、有する能力に応じた日常生活が送れるように努めます。</p> <p>2.職員は、自分の仕事に誇りを持ち、「家訓」の実践に工夫と反省を心掛けて、「自分や家族が入居したいと思う」職場作りに努めます。</p>	<p>【前回の目標達成計画で取り組んだこと・その結果】</p> <p>1、入居者の情報をより多く収集し本人の思いや意向を介護計画に反映する必要がある。</p> <p>○本人の思いや意向を聞いて申し送り職員の共通認識が出来、外出支援・個別ケア実施に繋がった。介護計画の説明時に家族にも外出支援について理解して頂けた。</p> <p>○家族と事業所との信頼関係がより密になれるよう工夫する必要がある。</p> <p>○昨年12月と今年8月年2回家族会の実施を目指し取り組んでいる。また、家族会の前にアンケートを配布して改善出来るように努めている。また、季節ごとに事業所便りを配布して家族にも楽しんで頂いている。</p>	<p>【今回、外部評価で確認した事業所の特徴】</p> <p>頼れる存在の管理者を軸として、職員は利用者を人生の先輩として敬意、一人ひとりの意向を把握し、全員が笑顔で過ごせるよう支援している。利用者には調理の食材の準備など、できることを手伝ってもらっており、積極的に取り組む姿勢が窺える。地域の拠点として機能の充実を目指し、努力を積み重ねている事業所である。</p>
---	---	---

## 評価結果表

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
I. その人らしい暮らしを支える									
(1) ケアマネジメント									
1	思いや暮らし方の希望、意向の把握	a	利用者一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。	△	普通の会話の中から希望や要望を把握している。また家族には面会時や介護計画を説明したときに希望や意向をお伺いしている。	○	/	○	利用者一人ひとりの思いを日頃の会話から把握するよう努め、家族からも面会時に利用者の意向等を確認している。
		b	把握が困難な場合や不確かな場合は、「本人はどうか」という視点で検討している。	○	家族や面会に来られた親戚・知人の方にお伺いしている。また、「本人はどうか」利用者の立場になって検討している。	/	/	/	
		c	職員だけでなく、本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)とともに、「本人の思い」について話し合っている。	○	本人の性格・生活歴・習慣を聞き情報共有に努めている。	/	/	/	
		d	本人の暮らし方への思いを整理し、共有化するための記録をしている。	△	本人の様子や日常の出来事・対応・言葉などに注意して記入している。	/	/	/	
		e	職員の思い込みや決めつけにより、本人の思いを見落とさないように留意している。	○	本人の想いを職員間で共有して本人主体のケアが実現出来るように努めている。また本人の言葉を記録に残し振り返れるようにしている。	/	/	/	
2	これまでの暮らしや現状の把握	a	利用者一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、こだわりや大切にしてきたこと、生活環境、これまでのサービス利用の経過等、本人や本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)から聞いている。	○	本人が今まで大切にしてきた物を継続して使って生活していただいたり、馴染み関係がこれからも続いていけるように取り組んでいる。	/	/	○	入居後に介護支援専門員を交え相談の場を設け、利用者の生活歴や趣味、こだわりなどについてアセスメント票に記録し介護計画に活かしている。
		b	利用者一人ひとりの心身の状態や有する力(わかること・できること・できそうなこと等)等の現状の把握に努めている。	△	職員と家事を一緒にして出来る・出来ないを知っていく事や会話の中で情報を集めている。	/	/	/	
		c	本人がどのような場所や場面で安心したり、不安になったり、不安定になったりするかを把握している。	△	表情が変わった事や発した言葉を情報交換しており、その日の状態や変化が分かるよう取り組んでいる。	/	/	/	
		d	不安や不安定になっている要因が何かについて、把握に努めている。(身体面・精神面・生活環境・職員のかかわり等)	○	不安になる前どんな活動をされていたのか記録で確認し、要因が何なのか話し合いを行っている。	/	/	/	
		e	利用者一人ひとりの一日の過ごし方や24時間の生活の流れ・リズム等、日々の変化や違いについて把握している。	○	入所してすぐはその人の一日の様子が把握できるように細かな事まで記録に残し、職員が把握できるように工夫している。	/	/	/	
3	チームで行うアセスメント(※チームとは、職員のみならず本人・家族・本人をよく知る関係者等を含む)	a	把握した情報をもとに、本人が何を求め必要としているのかを本人の視点で検討している。	○	集めた情報を元に本人主体の支援が出来るようリーダーを中心に話し合い、実現に向けて取り組んでいる。	/	/	○	取得した情報は職員間で共有し、利用者が求めているものは何かという視点で話し合いを進めている。
		b	本人がより良く暮らすために必要な支援とは何かを検討している。	○	集めた情報を整理し生活歴・習慣の把握に努め、必要な支援について話し合っている。	/	/	/	
		c	検討した内容に基づき、本人がより良く暮らすための課題を明らかにしている。	△	ミーティング記録や申し送りノートを活用し記録している。また面会時や電話連絡の時に家族にその都度説明をしている。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
4	チームでつくる本人がより良く暮らすための介護計画	a	本人の思いや意向、暮らし方が反映された内容になっている。	○	利用者一人一人の暮らしの希望や想いを把握できるように努めている。本人の願いを一つでも実現できるように前向きに取り組んでいる。	/	/	/	利用者がより安心して暮らすにはどうしたらいいかということを念頭に、利用者や家族、職員を交え話し合い、取りまとめた結果を介護計画に反映している。
		b	本人がより良く暮らすための課題や日々のケアのあり方について、本人、家族等、その他関係者等と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映して作成している。	○	本人・家族の意向・要望を聞き、意見交換をしながら介護計画を作成している。必要に応じて主治医に助言を頂いている。	◎	/	○	
		c	重度の利用者に対しても、その人が慣れ親しんだ暮らし方や日々の過ごし方ができる内容となっている。	○	以前の暮らしが引き続き継続できるように、馴染みの物・好きな物を持って来て頂いている。	/	/	/	
		d	本人の支え手として家族等や地域の人たちとの協力体制等が盛り込まれた内容になっている。	○	地域の文化祭に利用者の作品が展示出来るように計画を立てて協力して頂いている。	/	/	/	
5	介護計画に基づいた日々の支援	a	利用者一人ひとりの介護計画の内容を把握・理解し、職員間で共有している。	△	一人ひとりの介護計画が理解できていない職員もいるが日々取り組みについて介護記録に残している。	/	/	△	介護計画については、理解していない職員もいるので、皆がケアに活かせるよう内容を理解することが望まれる。申し送りに力を入れ、その日の利用者の状況は職員全員が共有するようにしている。介護記録内容は量の多い少ないはあるが、利用者一人ひとりの具体的な感謝の言葉や表情、職員の気づきや工夫などを記録に残している。
		b	介護計画にそってケアが実践できたか、その結果どうだったかを記録して職員間で状況確認を行うとともに、日々の支援につなげている。	○	介護計画に沿って支援出来ているか申し送りの時に引き継ぎをしている。またその日の体調・ペースに合わせて実施している。	/	/	○	
		c	利用者一人ひとりの日々の暮らしの様子(言葉・表情・しぐさ・行動・身体状況・エピソード等)や支援した具体的内容を個別に記録している。	○	日々の暮らしの様子を介護記録に残し、言動や様子について記入するようにしている。	/	/	○	
		d	利用者一人ひとりについて、職員の気づきや工夫、アイデア等を個別に記録している。	△	新しい取り組みを実施した時の様子や表情を介護記録に残すようにしている。	/	/	○	
6	現状に即した介護計画の見直し	a	介護計画の期間に応じて見直しを行っている。	○	期間は6か月にしているが、本人の状態や結果を照らし合わせてその都度変更していく場合もある。家族にもその都度連絡をしている。	/	/	○	6か月で見直しをしている。利用者の状態に変化がある時は、その都度家族にも確認し介護計画を変更している。毎月末に利用者の状況を確認しており、変化が見られなくても話し合い変更するべきかどうか検討している。利用者の状態に変化があった場合は、担当者を中心に家族も含めカンファレンスで見直しを含め協議している。
		b	新たな要望や変化がみられない場合も、月1回程度は現状確認を行っている。	△	毎月月末に評価をして現状確認をしている。その中で継続するべきなのか変更するべきなのか話し合いを行っている。	/	/	○	
		c	本人の心身状態や暮らしの状態に変化が生じた場合は、随時本人、家族等、その他関係者等と見直しを行い、現状に即した新たな計画を作成している。	○	本人の心身の状態に変化があった場合はカンファレンスで話し合い、見直すべきか検討している。変更する場合は家族に連絡し協力して頂いている。	/	/	○	
7	チームケアのための会議	a	チームとしてケアを行う上での課題を解決するため、定期的、あるいは緊急案件がある場合にはその都度会議を開催している。	○	毎月ミーティングを開催しており、利用者カンファレンスの時間を設け情報共有を図っている。また、緊急を要する場合は緊急のミーティングを開催する場合もある。	/	/	○	緊急ミーティングを開催する時には、各フロアの職員が利用者の見守りに差支えないよう協力しあっている。会議に参加できない職員には、申し送りノートで内容を正確に伝達するよう努めている。
		b	会議は、お互いの情報や気づき、考え方や気持ちを率直に話し合い、活発な意見交換ができるよう雰囲気や場づくりを工夫している。	○	職員が議題の利用者を決め司会者の下、職員全員が意見を言えるように環境を作っている。	/	/	/	
		c	会議は、全ての職員を参加対象とし、可能な限り多くの職員が参加できるよう開催日時や場所等、工夫している。	○	会議は全職員が対象ではあるが、参加できない場合は記録を読んで情報の共有を図ったり申し送りの時に会議の内容を伝えている。また担当職員が勉強会を開いている。	/	/	/	
		d	参加できない職員がいた場合には、話し合われた内容を正確に伝えるしくみをつくっている。	△	ミーティング記録を読んで共有を図ったり、口頭で伝えている。	/	/	○	
8	確実な申し送り、情報伝達	a	職員間で情報伝達すべき内容と方法について具体的に検討し、共有できるしくみをつくっている。	△	申し送りでは口頭や業務日誌の特記事項に記入し情報の共有を図っている。また日勤から夜勤者にも情報共有できるように工夫している。	/	/	○	業務日誌の特記事項欄に記入し、職員間で確実に共有している。
		b	日々の申し送りや情報伝達を行い、重要な情報は全ての職員に伝わるようにしている。(利用者の様子・支援に関する情報・家族とのやり取り・業務連絡等)	○	申し送りノートにはサイン欄を設け出勤時に目を通してから業務にあたっている。	◎	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
<b>(2) 日々の支援</b>									
9	利用者一人ひとりの思い、意向を大切にされた支援	a	利用者一人ひとりの「その日したいこと」を把握し、それを叶える努力を行っている。	○	毎日一人ひとり全員の希望を叶える事は出来ていないが、外出が好きな利用者が多いため外に出る機会を多く設けている。	/	/	/	朝食時の主食の選択や入浴の希望など、自己決定できる機会をつくり意思を尊重するよう努めている。花の好きな利用者のために食卓に花を活けたり、戸外の花を見に行くなど潤いある表情を引き出すための声かけや環境作りにも取り組んでいる。
		b	利用者が日々の暮らしの様々な場面で自己決定する機会や場をつくっている。(選んでもらう機会や場をつくる、選ぶのを待っている等)	○	入浴後の服を職員と一緒に選んだり、朝食ではごはん・パンなど自分で決められる機会が多くもてるように配慮している。	/	/	○	
		c	利用者が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた支援を行うなど、本人が自分で決めたり、納得しながら暮らせるよう支援している。	○	買いたい物を一緒に買いに行き、自分で選んでいただけるよう取り組んでいる。	/	/	/	
		d	職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースや習慣を大切にされた支援を行っている。(起床・就寝、食事・排泄・入浴等の時間やタイミング・長さ等)	○	起床時間・就寝時間など利用者一人ひとりの時間に合わせて過ごして頂いている。	/	/	/	
		e	利用者の生き生きした言動や表情(喜び・楽しみ・うらおい等)を引き出す言葉がけや雰囲気づくりをしている。	○	笑顔が多くみられるようにコミュニケーションを大切にしている。	/	/	○	
		f	意思疎通が困難で、本人の思いや意向がつかめない場合でも、表情や全身での反応を注意深くキャッチしながら、本人の意向にそった暮らし方ができるよう支援している。	○	表情や仕草で求めているものを探り確認しながら声掛けをしてその人らしい生活が暮れるように配慮している。	/	/	/	
10	一人ひとりの誇りやプライバシーを尊重した関わり	a	職員は、「人権」や「尊厳」とは何かを学び、利用者の誇りやプライバシーを大切にされた言葉かけや態度等について、常に意識して行動している。	○	一人ひとりのペースを大切し、利用者の状態に合わせて声掛けや支援を行い安心した生活を送っていただけるよう配慮している。	○	○	○	年1回の職員研修やミーティング等により、利用者の人権や尊厳について全職員が共有している。トイレ誘導時には、他の利用者にはわからないよう優しく耳元で柔らかいトーンで話しかけている。居室の掃除等で入室する時は必ず声かけしている。ドアが開いていても閉じていても、必ずノックや声かけは忘れないで行っている。
		b	職員は、利用者一人ひとりに対して敬意を払い、人前であからさまな介護や誘導の声かけをしないよう配慮しており、目立たずさりげない言葉がけや対応を行っている。	△	他者がいる前で支援内容が分からないように声の大きさやさりげない声掛けに配慮している。	/	/	○	
		c	職員は、排泄時や入浴時には、不安や羞恥心、プライバシー等に配慮ながら介助を行っている。	○	排泄介助など安全に気を付けながら居室の戸を開けてから介助を行う配慮をしている。	/	/	/	
		d	職員は、居室は利用者専用の場所であり、プライバシーの場所であることを理解し、居室への出入りなど十分配慮しながら行っている。	△	利用者の居室への入室時本人に必ず声掛けしてから入室するように配慮している。	/	/	○	
		e	職員は、利用者のプライバシーの保護や個人情報漏えい防止等について理解し、遵守している。	○	個人情報の取り扱いについては代表より知識を深めて厳守出来るように努めている。	/	/	/	
11	ともに過ごし、支え合う関係	a	職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、利用者に助けってもらったり教えてもらったり、互いに感謝し合うなどの関係性を築いている。	○	利用者「ありがとう」と職員が感謝の気持ちを伝えられるよう努めている。	/	/	/	利用者の中にムードメーカーがおり、利用者同士がトラブルにならないよう場を和ませてくれている。利用者同士仲が良く特に席は決めておらず、食事の際も笑顔で会話している。
		b	職員は、利用者同士がともに助け合い、支え合って暮らしていくことの大切さを理解している。	○	利用者同士で花札やトランプをして楽しく過ごされている場面もある。利用者同士お互いが気遣いながら生活している。	/	/	/	
		c	職員は、利用者同士の関係を把握し、トラブルになったり孤立したりしないよう、利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。(仲の良い利用者同士が過ごせる配慮をする、孤立しがちな利用者が交わる機会を作る、世話役の利用者にうまく力を発揮してもらう場面をつくる等)。	△	馴染みの利用者同士の関係を大切にしている。介護度の高い利用者のその空気・生活音輪の中に入って生活できるように工夫している。	/	/	○	
		d	利用者同士のトラブルに対して、必要な場合にはその解消に努め、当事者や他の利用者に不安や支障を生じさせないようにしている。	△	トラブルになりそうな場面や不安になる場合を職員が把握し、必要に応じて間に入り支援している。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
12	馴染みの人や場との関係継続の支援	a	これまで支えてくれたり、支えてきた人など、本人を取り巻く人間関係について把握している。	○	リーダーや勤務年数の長い職員が中心となって把握しており、話し合いが行えている。	/	/	/	
		b	利用者一人ひとりがこれまで培ってきた地域との関係や馴染みの場所などについて把握している。	○	各担当者が把握に努めている。慣れ親しんだ場所へドライブに行くこともある。	/	/	/	
		c	知人や友人等に会いに行ったり、馴染みの場所に出かけていくなど本人がこれまで大切にしてきた人や場所との関係が途切れないよう支援している。	△	外出する機会を設けているが、本人が知人に会う場合はこちらに来て頂く事が殆どでこちらからお伺いする支援は来ていない。	/	/	/	
		d	家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪れ、居心地よく過ごせるよう工夫している。	○	大人数で来られた時は会議室を解放して皆様でゆっくり過ごして頂けるよう配慮している。また玄関まわりに花を植え、環境作りに配慮している。	/	/	/	
13	日常的な外出支援	a	利用者が、1日中ホームの中で過ごすことがないよう、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう取り組んでいる。(職員側の都合を優先したり、外出する利用者、時間帯、行き先などが固定化していない)(※重度の場合は、戸外に出て過ごすことも含む)	○	天気の良い日には近くの公園や川沿いに散歩に出かけベンチでお茶をしたり鯉に餌やりをして過ごしている。玄関先には季節の花や今年から野菜も植え見ている。また、日用品と一緒に買いに行ったり個別ケアも行っている。	○	×	○	近くの公園に散歩に出かけ、ベンチでお茶を飲んだり川の鯉に餌をあげたりしている。スーパーの買い物に同行する利用者もいる。散歩の際は近所の方とあいさつを交わし会話もしている。車いす利用者が選挙に行きたいとの希望があり、家族の協力を得て投票に行くことはあるが、利用者全員の外出支援にまでは至っていないので、今後は積極的に外出を増やすような取組みに期待したい。
		b	地域の人やボランティア、認知症サポーター等の協力も得ながら、外出支援をすすめている。	×	職員が支援したり、家族の力を借りながら取り組んでいる。ボランティアやサポーターの支援は借りられていない。	/	/	/	
		c	重度の利用者も戸外で気持ち良く過ごせるよう取り組んでいる。	△	玄関先の花を見て過ごしたり、ホームの車でドライブに行き、気分転換を図れている。	/	/	△	
		d	本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら、普段は行けないような場所でも出かけられるように支援している。	×	外出機会を設けているが家族との外出はなかなか実現出来ていない。	/	/	/	
14	心身機能の維持、向上を図る取り組み	a	職員は認知症や行動・心理症状について正しく理解しており、一人ひとりの利用者の状態の変化や症状を引き起こす要因をひもとき、取り除くケアを行っている。	△	認知症の外部研修に参加し知識を深めている。また研修後は社内研修を開き知識を深めているが取り除くケアまでには至っていない。	/	/	/	裁縫の得意な利用者には、繕いやボタン付けなどをしてもらったり、食後の下膳などできることは皆にしてもらうなど、職員は利用者が色々な場面で力が発揮できるよう支援に努めている。
		b	認知症の人の身体面の機能低下の特徴(筋力低下・平衡感覚の悪化・排泄機能の低下・体温調整機能の低下・嚥下機能の低下等)を理解し、日常生活を営む中で自然に維持・向上が図れるよう取り組んでいる。	○	毎日職員とリハビリ運動を日課にしている方や手作業が得意な方はビーズ作りを行い玄関に展示している。また地区の文化祭にも出展計画を立てている。	/	/	/	
		c	利用者の「できること、できそうなこと」については、手や口を極力出さずに見守ったり一緒に行うようにしている。(場面づくり、環境づくり等)	△	本人が行える事行ってもらえるよう声掛けをしている。またその日の体調や状態に合わせて対応している。	◎	/	○	
15	役割、楽しみごと、気晴らしの支援	a	利用者一人ひとりの生活歴、習慣、希望、有する力等を踏まえて、何が本人の楽しみごとや役割、出番になるのかを把握している。	○	利用者の情報から生活の中で楽しんで出来る役割を見つけて支援している。	/	/	/	利用者の状態にかかわらず、喜びのある生活を送ってもらうようダンスやカラオケ、餅つきやしめなわ作りなど、役割や出番をつくるよう支援に努めている。
		b	認知症や障害のレベルが進んでも、張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、日常的に、一人ひとりの楽しみごとや役割、出番をつくる取り組みを行っている。	△	状態が変化・その日の体調に合わせて出来る事を無理強やさせることなく取り組んでいる。	◎	○	○	
		c	地域の中で役割や出番、楽しみ、張り合いが持てるよう支援している。	△	地域の方が事業所の行事に参加された時は地域の方とあいさつをして関係を深めている。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
16	身だしなみやおしゃれの支援	a	身だしなみを本人の個性、自己表現の一つととらえ、その人らしい身だしなみやおしゃれについて把握している。	△	本人や家族にこだわりをお伺いし、その人らしいおしゃれが継続して行えるよう配慮している。				髭剃りは日課となっており、剃り残しがないよう職員が確認している。テーブルの上にティッシュが用意され、食べこぼしは自分で処理できるようになっているが、常に職員が見守っており口の周りなどの汚れはさりげなく拭くようにしている。利用者全員が毎日着替えをしており、状態にかかわらずその人らしさが保てるよう支援に努めている。
		b	利用者一人ひとりの個性、希望、生活歴等に応じて、髪形や服装、持ち物など本人の好みで整えられるように支援している。	○	散髪の際に自分で髪型を伝え整えている方もいる。自己選択が難しい方は選択肢を設けてその人らしさを保てるように努めている。				
		c	自己決定がしにくい利用者には、職員と一緒に考えたりアドバイスする等本人の気持ちにそって支援している。	○	話の中で汲み取ったり家族の話と本人の話を照らし合わせて一緒に考えている。				
		d	外出や年中行事等、生活の彩りにあわせてその人らしい服装を楽しめるよう支援している。	○	外出前に自分で支度をし外出先に合わせて身だしなみを整える方もいる。				
		e	整容の乱れ、汚れ等に対し、プライドを大切にしたりさりげなくカバーしている。(髭、着衣、履き物、食べこぼし、口の周囲等)	△	自分で直せる方にはさりげなく声掛けし、自分で直せない方は職員が直したり利用者に合わせて支援している。	◎	◎	○	
		f	理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	△	個別に美容室に通っている方もいるが、ほとんどの利用者が訪問に来て頂いている美容室で整えている。				
		g	重度な状態であっても、髪形や服装等本人らしさが保てる工夫や支援を行っている。	△	出来る範囲でその人らしさが保てるように努めている。			○	
17	食事を楽しむことのできる支援	a	職員は、食事の一連のプロセスの意味や大切さを理解している。	△	利用者の嚥下や咀嚼の状態等把握しており、介助が必要な場合は付き添い介助している。				献立は調理師と職員が利用者の嗜好を取り入れ立てている。利用者は玉葱の皮むきや、もやしのひげ取りなどの準備を手伝っている。行事食の定番で利用者の好きなちらし寿司は、誕生日には欠かせないメニューでいつも喜んでもらっている。そうめん流しやいもたきなど季節感も取り入れている。ごはんがわかりやすいよう黒色の茶碗にしたり、利用者の好みのコップなどにしている。利用者の食事サポートも大事であるが、今後は利用者と一緒に会話をしながら食事をするにも取り組んで欲しい。事業所が料理の音や香りなどが利用者へ届きやすいような造りのため、利用者は毎日食事を待ち遠しく思っている。調理師に相談しながら、栄養バランスも考慮の上献立を作成している。
		b	買い物や献立づくり、食材選び、調理、後片付け等、利用者とともにやっている。	○	献立は職員が作っており利用者に食べたい物好きな物を聞いて盛り込んでいる。調理は調理師に任せており、旬の物をたくさん使い四季を感じて頂いている。			○	
		c	利用者とともに買い物、調理、盛り付け、後片付けをする等を行うことで、利用者の力の発揮、自信、達成感につなげている。	△	個人的な買い物は利用者と一緒にいく機会を設けている。				
		d	利用者一人ひとりの好きなものや苦手なもの、アレルギーの有無などについて把握している。	◎	利用者のアレルギーは入所の際に本人・家族から聞き取り情報の共有を図っている。				
		e	献立づくりの際には、利用者の好みや苦手なもの、アレルギー等を踏まえつつ、季節感を感じさせる旬の食材や、利用者にとって昔なつかしいもの等を取り入れている。	○	職員と調理師が行っており、旬な物・利用者の好きな物を取り入れながら喜んでいただける献立作りをしている。			○	
		f	利用者一人ひとりの咀嚼・嚥下等の身体機能や便秘・下痢等の健康状態にあわせた調理方法とつつ、おいしいような盛り付けの工夫をしている。(安易にミキサー食や刻み食で対応しない、いろどりや器の工夫等)	○	利用者の咀嚼・嚥下能力に合わせて食事形態を変更している。美味しく食べられるよう盛り付けにも配慮している。				
		g	茶碗や湯飲み、箸等は使い慣れたもの、使いやすいものを使用している。	△	以前使用していた物を継続して使って頂く場合や新規購入する場合は一緒に選んで購入するように配慮している。			○	
		h	職員も利用者と同じ食卓を囲んで食事を一緒に食べながら一人ひとりの様子を見守り、食事のペースや食べ方の混乱、食べこぼしなどに対するサポートをさりげなく行っている。	×	食事介助が必要な利用者や服薬者が多いため職員は利用者の服薬介助・口腔ケア・見守り後食事をしている。			△	
		i	重度な状態であっても、調理の音やにおい、会話などを通して利用者が食事が待ち遠しくおいしく味わえるよう、雰囲気づくりや調理に配慮している。	△	居室の戸を開けており料理の香りや生活音が居室に届き安心していただけるよう配慮している。	◎		○	
		j	利用者一人ひとりの状態や習慣に応じて食べられる量や栄養バランス、カロリー、水分摂取量が1日を通じて確保できるようにしている。	○	食事量や水分量をチェックし申し送りの際に引き継ぎを行っている。利用者の体調に合わせて、食事時間や量・形態・量の工夫も行っている。				
		k	食事量が少なかったり、水分摂取量の少ない利用者には、食事の形態や飲み物の工夫、回数やタイミング等工夫し、低栄養や脱水にならないよう取り組んでいる。	○	体調によって食事の時間をずらしたり、好きな物を出して様子を見ている。また無理強いさせる事なく本人の様子を見ながら対応している。				
l	職員で献立のバランス、調理方法などについて定期的に話し合い、偏りがないように配慮している。場合によっては、栄養士のアドバイスを受けている。	○	調理師と相談しながら旬の食材を取り入れたり、献立が重ならないよう注意している。また行事や誕生日月の利用者は好きな料理を聞いて取り入れている。			○			
m	食中毒などの予防のために調理用具や食材等の衛生管理を日常的に行い、安全で新鮮な食材の使用と管理に努めている。	○	調理師の助言を基にまな板の消毒や手洗いの徹底、食材は調味期限内に注意しながら調理している。						

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
18	口腔内の清潔保持	a	職員は、口腔ケアが誤嚥性肺炎の防止につながることを知っており、口腔ケアの必要性、重要性を理解している。	○	歯科医の助言を受け入れながら口腔ケアが誤嚥性肺炎の防止になると職員に伝えており理解している。	/	/	/	チェックシートは準備していないが、一人ひとりの口腔の状態は欠かさずチェックしている。毎食後利用者の状態に合わせ、口腔内の清潔が保持できるようケアに努めている。入歯は必ず洗浄液に浸し清潔を保っており、利用者が安心して使用している。
		b	利用者一人ひとりの口の中の健康状況(虫歯の有無、義歯の状態、舌の状態等)について把握している。	○	食事中や口腔ケアの際、義歯の状態や歯の確認をしている。	/	/	○	
		c	歯科医や歯科衛生士等から、口腔ケアの正しい方法について学び、日常の支援に活かしている。	○	往診後歯磨き指導や口腔内の管理について助言を頂き、その人に合った方法で対応している。	/	/	/	
		d	義歯の手入れを適切に行えるよう支援している。	◎	毎食後口腔ケアを行い口腔内の清潔に努めている。また夜間は入れ歯洗浄剤を使用している。	/	/	/	
		e	利用者の力を引き出しながら、口の中の汚れや臭いが生じないように、口腔の清潔を日常的に支援している。(歯磨き・入れ歯の手入れ・うがい等の支援、出血や炎症のチェック等)	○	毎食後利用者の状態に合わせて口腔ケアを実施している。	/	/	○	
		f	虫歯、歯ぐきの腫れ、義歯の不具合等の状態をそのままにせず、歯科医に受診するなどの対応を行っている。	◎	本人の痛みの訴えや口腔ケアの時の表情を見て看護師と相談し迅速に歯科医に連絡し受診出来るように努めている。	/	/	/	
19	排泄の自立支援	a	職員は、排泄の自立が生きる意欲や自信の回復、身体機能を高めることにつながることや、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)の使用が利用者の心身に与えるダメージについて理解している。	△	日中は可能な限りトイレを使用していたり、一人ひとりの排泄パターンの把握に努めている。自尊心を気づけないよう声掛けに配慮し自立に向けた支援を提供している。	/	/	/	利用者一人ひとりの排泄パターンを把握し、日中はトイレでの排泄を基本にその人に合った支援に努めている。
		b	職員は、便秘の原因や及ぼす影響について理解している。	○	食物繊維の多い食べ物や寒天ゼリーをおやつに取り入れ工夫している。また体操・散歩・歩行練習など実施し便秘にならないよう努めている。	/	/	/	
		c	本人の排泄の習慣やパターンを把握している。(間隔、量、排尿・排便の兆候等)	○	排便チェック表を基に一人ひとり把握に努めている。チェック表に記録を残し、必要に応じて薬での対応もしている。	/	/	/	
		d	本人がトイレで用を足すことを基本として、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)使用の必要性や適切性について常に見直し、一人ひとりのその時々状態にあった支援を行っている。	○	一人ひとりの状態や排泄パターン等常に話し合いを行っている。	◎	/	○	
		e	排泄を困難にしている要因や誘因を探り、少しでも改善できる点はないか検討しながら改善に向けた取り組みを行っている。	○	居室にポータブルトイレを配置したり、目の見えにくい方でも、トイレの位置を把握しやすいように、手すりに赤色のビニールテープを貼り分かりやすいように配慮している。	/	/	/	
		f	排泄の失敗を防ぐため、個々のパターンや兆候に合わせて早めの声かけや誘導を行っている。	○	排泄チェック表を使用し一人ひとりの排泄パターンの把握に努めている。また、早めに声をかけたり、こまめに誘導をしている。	/	/	/	
		g	おむつ(紙パンツ・パッドを含む)を使用する場合は、職員が一方的に選択するのではなく、どういう時間帯にどのようなものを使用するか等について本人や家族と話し合い、本人の好みや自分で使えるものを選択できるよう支援している。	×	利用者一人ひとりの排泄パターンを把握して、ミーティングや申し送りや相談し紙パンツに変更する場合家族に説明し協力して頂けるように努めている。	/	/	/	
		h	利用者一人ひとりの状態に合わせて下着やおむつ(紙パンツ・パッドを含む)を適時使い分けている。	○	身体の変化・状態によってその都度相談しながら変更し対応している。	/	/	/	
		i	飲食物の工夫や運動への働きかけなど、個々の状態に応じて便秘予防や自然排便を促す取り組みを行っている。(薬に頼らない取り組み)	○	おやつに寒天・ヨーグルトなどを食べて頂き散歩や体操を実施して排便できるように取り組んでいる。また腹部マッサージも実施している。	/	/	/	
20	入浴を楽しむことができる支援	a	曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、利用者一人ひとりの希望や習慣にそって入浴できるよう支援している。(時間帯、長さ、回数、温度等)。	◎	声掛けをして入浴を決めて頂いている。拒否させた場合は無理強いせず、時間の変更や日にちの変更をして本人に合わせて実施している。	◎	/	◎	入浴の回数は、利用者の希望に沿えられるようになっている。利用者一人ひとりに合わせた入浴時間や湯温にするなど、気持ちよく入浴してもらうよう支援している。
		b	一人ひとりが、くつろいだ気分で入浴できるよう支援している。	○	職員と会話を楽しみながらゆっくり入浴出来るように配慮している。またお湯の温度・入浴時間を配慮しながら日頃話せない想いが聞き取れるよう工夫している。	/	/	/	
		c	本人の力を活かしながら、安心して入浴できるよう支援している。	○	一人ひとりの能力を生かし自分で出来る所はして頂き、届かないと所を補助している。	/	/	/	
		d	入浴を拒む人に対しては、その原因や理由を理解しており、無理強いせず気持ちよく入浴できるよう工夫している。	○	無理強いせず時間帯・職員を変更して自然に入れるよう工夫している。また本人の中で入る日を決めている方は出来るだけ尊重している。	/	/	/	
		e	入浴前には、その日の健康状態を確認し、入浴の可否を見極めるとともに、入浴後の状態も確認している。	◎	入浴前には必ずバイタルチェックを行い状態把握に努めている。入浴後は水分補給をして体調の変化を観察している。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
21	安眠や休息の支援	a	利用者一人ひとりの睡眠パターンを把握している。	○	夜間記録に睡眠状況を残しパターンを把握できるように努めている。	/	/	/	夜間安眠できるよう日中はレクリエーションや散歩など、無理のない活動に取り組んでいる。夜中目覚めた時は、職員が寄り添い見守っている。体調等のためやむを得ない場合は、医師の指示のもと睡眠導入剤を使用することもある。
		b	夜眠れない利用者についてはその原因を探り、その人本来のリズムを取り戻せるよう1日の生活リズムを整える工夫や取り組みを行っている。	○	起床時間・食事時間は本人のペースに合わせて支援している。	/	/	/	
		c	睡眠導入剤や安定剤等の薬剤に安易に頼るのではなく、利用者の数日間の活動や日中の過ごし方、出来事、支援内容などを十分に検討し、医師とも相談しながら総合的な支援を行っている。	○	夜間の記録や日中の過ごし方を参考にして昼夜逆転にならないように配慮している。主治医より薬が必要と判断が出たときに服薬して頂いている。	/	/	/	
		d	休息や昼寝等、心身を休める場面が個別に取れるよう取り組んでいる。	○	横になって昼寝・休憩の時間を設けており休んで頂けるよう配慮している。	/	/	/	
22	電話や手紙の支援	a	家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	○	家族から電話がかかってきたら居室でゆっくり話す時間を設けている。また、家族に連絡したい場合は事前に都合の良い時をお伺いしたり配慮している。	/	/	/	
		b	本人が手紙が書けない、電話はかけられないと決めつけず、促したり、必要な手助けをする等の支援を行っている。	○	お孫さん宛に年賀状を送る際には職員と一緒に色付けをして出来る所は一緒に工夫しながら作っている。	/	/	/	
		c	気兼ねなく電話できるよう配慮している。	○	携帯電話を所持している利用者もおられ気兼ねなく話をされている。また電話の希望があれば事業所の電話を使って家族と連絡されている。	/	/	/	
		d	届いた手紙や葉書をそのままにせず音信がとれるように工夫している。	×	一人ひとりお渡しして伝えているが返信することは今の所少ないので今後取り組んでいきたい。	/	/	/	
		e	本人が電話をかけることについて家族等に理解、協力をしてもらうとともに、家族等からも電話や手紙をくれるようお願いしている。	○	入所時に協力依頼の説明をし同意して頂いている。実際電話をかけるときには、事前に都合の良い時間をお伺い対応させていただいている。	/	/	/	
23	お金の所持や使うことの支援	a	職員は本人がお金を所持すること、使うことの意味や大切さを理解している。	△	外出の時に買い物をする際には欲しい物を自分で選んでいるが支払いには本人の財布で職員が支払っている事が多い。	/	/	/	
		b	必要物品や好みの買い物に出かけ、お金の所持や使う機会を日常的につくっている。	△	日用品・服と一緒に買いに行く機会や外食に行く機会を設けている。	/	/	/	
		c	利用者が気兼ねなく安心して買い物ができるよう、日頃から買い物先の理解や協力を得る働きかけを行っている。	○	車いす対応のトイレが設置あいてあるか店舗の確認を事前にしてから安心して買い物を楽しんでもらえるよう配慮している。	/	/	/	
		d	「希望がないから」「混乱するから」「失くすから」などと一方的に決めてしまうのではなく、家族と相談しながら一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	○	外出の際支払いは職員が行っていることが多いので工夫が必要。	/	/	/	
		e	お金の所持方法や使い方について、本人や家族と話し合っている。	○	紛失等のリスクも相談している。また一人ひとり出納帳を作成し家族にお金の流れが分かるよう配慮している。	/	/	/	
		f	利用者が金銭の管理ができない場合には、その管理方法や家族への報告の方法などルールを明確にしており、本人・家族等の同意を得ている。(預り金規程、出納帳の確認等)。	○	一人ひとり出納帳を作成し家族にお金の流れが分かるように工夫している。また面会の時に出納帳にサインして頂いたり、毎月出納帳コピーと日常の様子を配布している。	/	/	/	
24	多様なニーズに応える取り組み		本人や家族の状況、その時々ニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	○	利用者の希望・要望に応えられるよう同系列施設の行事等に参加したり、外出支援を行っている。	◎	/	○	家族の協力を得ながら、月2回の受診や法人施設行事への参加など、利用者の要望等に応じた外出支援に努めている。



項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
(3)生活環境づくり									
25	気軽に入れる 玄関まわり等の配慮		利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、気軽に出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	○	玄関先にプランターで花や野菜を植えており、利用者と一緒に水やりや世話をしている。	◎	○	○	玄関入口が通りの反対の北側で分かりにくいいため、南側にきちんとわかりやすく貼り紙がある。利用者が心を込めて作ったビーズ作品が複数点飾られているなど、家族等は来所するのが楽しみになっている。
26	居心地の良い 共用空間づくり	a	共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、家庭的な雰囲気有しており、調度や設備、物品や装飾も家庭的で、住まいとしての心地良さがある。(天井や壁に子供向けの飾りつけをしていたり、必要なものが置いていない殺風景な共用空間等、家庭的な雰囲気をそぐような設えになっていないか等。)	△	季節に合わせて飾り物を変えたり、外出や行事の写真を掲示している。	○	○	○	共用空間の壁にはコルクボードに利用者の写真が飾られている。2階入口には利用者の似顔絵を飾っている。トイレの手すりは赤色テープでらせん状に巻かれ、利用者への配慮が伺える。足元には物品を置かないよう整理整頓され、掃除も行き届き気持ちがいいため、長時間でもゆっくり過ごすことができる。テーブルの上には季節の花が常に飾られ、来所者の心を和ませてくれる。
		b	利用者にとって不快な音や光、臭いがないように配慮し、掃除も行き届いている。	△	毎日掃除・整理整頓をしている。眩しくないようブラインドの配慮やテレビの音に注意している。	/	/	/	
		c	心地よさや能動的な言動を引き出すために、五感に働きかける様々な刺激(生活感や季節感を感じるもの)を生活空間の中に採り入れ、居心地よく過ごせるよう工夫している。	○	天気の良い日には窓際のソファに座り日光浴を楽しまれたり、季節に合わせて飾りものを変え写真も掲示している。	/	/	/	
		d	気の合う利用者同士で思い思いに過ごせたり、人の気配を感じながらも独りになれる居場所の工夫をしている。	△	利用者一人ひとり安心して過ごせるよう活動を通じて交流やリビングで過ごして頂けるよう配慮している。	/	/	/	
		e	トイレや浴室の内部が共用空間から直接見えないよう工夫している。	○	共有空間からトイレや浴室が見えない作りになっている。	/	/	/	
27	居心地良く過ごせる 居室の配慮		本人や家族等と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	○	今まで使っていた物を施設に持て来て頂き、各利用者居心地よく過ごして頂けるよう工夫している。	◎	/	○	居室には人形や書道作品、家族の写真などが置かれ家族の協力のもと、居心地よい最高の空間が作られている。
28	一人ひとりの力が 活かせる環境づくり	a	建物内部は利用者一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように配慮や工夫をしている。	○	手すりや介護用品を活用して移動できるように配慮している。安全・安心に目を配りながらも利用者の自立支援が出来るように努めている	/	/	○	居室の入口に目印として、小物を壁に飾るなど利用者それぞれが工夫している。トイレは目の高さで「トイレ」と優しい色使いで分かりやすく表示されていたり、手すりには赤色ビニールを巻くなど工夫し、利用者一人ひとりの安全を確保し、安心して生活できるよう配慮されている。
		b	不安や混乱、失敗を招くような環境や物品について検討し、利用者の認識間違いや判断ミスを最小にする工夫をしている。	△	混乱しないようトイレには名目を付けたりしているがそのほかの場所は職員が案内している。	/	/	/	
		c	利用者の活動意欲を触発する馴染みの物品が、いつでも手に取れるように生活空間の中にさりげなく置かれている。(ほうき、裁縫道具、大工道具、園芸用品、趣味の品、新聞・雑誌、ポット、急須・湯飲み・お茶の道具等)	○	分らず触ってしまう利用者もおられる為危険な物は職員が管理させていただいているが湯のみや新聞等は目や手の届く位置に置いている。	/	/	/	
29	鍵をかけない ケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が、居室や日中にユニット(棟)の出入り口、玄関に鍵をかけることの弊害を理解している。(鍵をかけられ出られない状態で暮らしていることの異常性、利用者にもたらす心理的不安や閉塞感・あきらめ・気力の喪失、家族や地域の人にもたらす印象のデメリット等)	○	鍵をかけていることでの利用者の変化や弊害のリスクについては話し合いの場を設けたりする事で職員の理解を深めている。	×	×	△	鍵をかけないで利用者を見守ることや、鍵をかけることによる利用者の心理的弊害については、職員皆が理解し共有している。日常利用者の安全確保に鑑み、来客等がある日以外玄関は施錠しているが、職員が常に利用者の行動を見守り、鍵をかけず自由に外出できるような支援を期待したい。
		b	鍵をかけない自由な暮らしについて家族の理解を図っている。安全を優先するために施錠を望む家族に対しては、自由の大切さと安全確保について話し合っている。	○	家族には夜間帯は防犯のこともあるため鍵について話をしている。日中帯は施錠を望まれていないためしていない。	/	/	/	
		c	利用者の自由な暮らしを支え、利用者や家族等に心理的圧迫をもたらさないよう、日中は玄関に鍵をかけなくてもすむよう工夫している(外出の察知、外出傾向の把握、近所の理解・協力の促進等)。	○	外出が好きな利用者が多いため散歩等を日課にしている方が多くなるべく出ようとしている。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
(4) 健康を維持するための支援									
30	日々の健康状態や病状の把握	a	職員は、利用者一人ひとりの病歴や現病、留意事項等について把握している。	◎	入所から現在まで利用者一人一人の状態把握できるように努めており、職員はその都度確認している。	/	/	/	
		b	職員は、利用者一人ひとりの身体状態の変化や異常のサインを早期に発見できるように注意しており、その変化やサインを記録に残している。	○	一人ひとり様子がおかしいと感じた際には、記録に残し管理者・看護師に報告し対応している。バイタルチェックも欠かさず行っている。	/	/	/	
		c	気になることがあれば看護職やかかりつけ医等いつでも気軽に相談できる関係を築き、重度化の防止や適切な入院につなげる等の努力をしている。	◎	異変を含めて状態が変わったことがあれば看護師に報告し、かかりつけ医に連絡に受診する体制をとっている。	/	/	/	
31	かかりつけ医等の受診支援	a	利用者一人ひとりのこれまでの受療状況を把握し、本人・家族が希望する医療機関や医師に受診できるよう支援している。	◎	入所の際には今までのかかりつけ医について話を聞き、施設のかかりつけ医について説明し、希望であれば引き続き今までのかかりつけ医に診て頂いている。	◎	/	/	
		b	本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	◎	本人から主治医に状態を話していただき、看護師が不足分を説明している。普段の状態を知っていただき適切な処置を行っている。	/	/	/	
		c	通院の仕方や受診結果の報告、結果に関する情報の伝達や共有のあり方等について、必要に応じて本人や家族等の合意を得られる話し合いを行っている。	◎	異変を含めて本人の状態が変わったことがあれば早急に連絡し報告をしている。その都度丁寧に説明し納得させている。	/	/	/	
32	入退院時の医療機関との連携、協働	a	入院の際、特にストレスや負担を軽減できる内容を含む本人に関する情報提供を行っている。	○	入院の場合は入居の際のアセスメント票や救急用の用紙を持ち普段の様子をスムーズに伝えるよう取り組んでいる。	/	/	/	
		b	安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。	○	病院に見舞いに行く際に今の現状や退院の見込み・施設に戻ってから注意する事など聞く機会を設けている。	/	/	/	
		c	利用者の入院時、または入院した場合に備えて日頃から病院関係者との関係づくりを行っている。	○	主治医とは細かい変化があった場合でも連絡し状態把握に努めて頂いている。	/	/	/	
33	看護職との連携、協働	a	介護職は、日常の関わりの中で得た情報や気づきを職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談している。看護職の配置や訪問看護ステーション等との契約がない場合は、かかりつけ医や協力医療機関等に相談している。	◎	一人ひとりの変化に気づき看護師の助言を元に職員全員が変化・対応方法等の情報を共有し統一したケアが行えるように努めている。また、看護師が往診や受診時に適切に主治医に伝達出来るよう密に連絡が図れている。	/	/	/	
		b	看護職もしくは訪問看護師、協力医療機関等に、24時間いつでも気軽に相談できる体制がある。	◎	看護師を配置しており、24時間いつでも相談できる体制を作っている。	/	/	/	
		c	利用者の日頃の健康管理や状態変化に応じた支援が適切にできるよう体制を整えている。また、それにより早期発見・治療につなげている。	○	日々のバイタルチェックや状態を看護師に報告し利用者の情報共有が密に図れている。	/	/	/	
34	服薬支援	a	職員は、利用者が使用する薬の目的や副作用、用法や用量について理解している。	○	利用者一人一人の薬の内容が把握できるように理解を深めている。	/	/	/	
		b	利用者一人ひとりが医師の指示どおりに服薬できるよう支援し、飲み忘れや誤薬を防ぐ取り組みを行っている。	◎	服薬支援は、利用者名・日付・朝昼夕を声に出して読み上げてから利用者に手渡し、飲み込みの確認をしている。	/	/	/	
		c	服薬は本人の心身の安定につながっているのか、また、副作用(周辺症状の誘発、表情や活動の抑制、食欲の低下、便秘や下痢等)がないかの確認を日常的に行っている。	◎	薬の変更があった場合は申し送りノートに書き理解を深めている。また、症状に変化の有無にも留意し、素早く対応している。	/	/	/	
		d	漫然と服薬支援を行うのではなく、本人の状態の経過や変化などを記録し、家族や医師、看護職等に情報提供している。	◎	状態に変化が見られた場合主治医に連絡し迅速に対応している。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
35	重度化や終末期への支援	a	重度化した場合や終末期のあり方について、入居時、または状態変化の段階ごとに本人・家族等と話し合いを行い、その意向を確認しながら方針を共有している。	◎	契約前の「重度化に関する指針」を説明するときに本人・家族が納得してから同意書にサインをして頂いている。また、状態の変化があった時には迅速に連絡できるよう努めている。	/	/	/	利用者や家族、主治医、職員を交え、看取りについて適宜話し合うようにしており、利用者や家族の意向に基づき支援するよう共有できている。
		b	重度化、終末期のあり方について、本人・家族等だけでなく、職員、かかりつけ医・協力医療機関等関係者で話し合い、方針を共有している。	○	主治医と適時相談をし本人・家族の意向を伝えそそぎを基に支援の方針を決め共有している。	○	/	○	
		c	管理者は、終末期の対応について、その時々職員の思いや力量を把握し、現状ではどこまでの支援ができるかの見極めを行っている。	△	本人と家族の希望や主治医の助言を元に看護師、ケアマネと共に今出来ることを話し合いケアに努めている。また、気取りの研修に参加し知識を深めると共に不安な気持ちを取り除けるよう努めている。	/	/	/	
		d	本人や家族等に事業所の「できること・できないこと」や対応方針について十分な説明を行い、理解を得ている。	△	「重度化の指針」の時に事業所で出来る事・出来ない事を説明してから同意書にサインをして頂いているので理解して頂いている。	/	/	/	
		e	重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、家族やかかりつけ医など医療関係者と連携を図りながらチームで支援していく体制を整えている。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	◎	本人と家族の意見・要望を密に相談を行い、希望する医療機関で受診出来るように支援している。また、主治医による往診が二週間に一回あり、近況報告が行っている。緊急時には迅速に対応できるよう連携も整っている。	/	/	/	
		f	家族等への心理的支援を行っている。(心情の理解、家族間の事情の考慮、精神面での支え等)	○	来訪時日々の様子についてお伝えしている。また会話の中から不安に思っている事を汲み取るよう努めている。	/	/	/	
36	感染症予防と対応	a	職員は、感染症(ノロウイルス、インフルエンザ、白癬、疥癬、肝炎、MRSA等)や具体的な予防策、早期発見、早期対応策等について定期的に学んでいる。	◎	看護師と連携し、ミーティングや申し送りの時に勉強・指導を行っている。また感染症マニュアルを作成し統一した対処・予防をしている。	/	/	/	
		b	感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、万が一、感染症が発生した場合に速やかに手順にそった対応ができるよう日頃から訓練を行うなどして体制を整えている。	◎	感染症用のセットを置いている場所を職員が把握している。また、マニュアルを作成し、職員は統一した対応が出来ている。	/	/	/	
		c	保健所や行政、医療機関、関連雑誌、インターネット等を通じて感染症に対する予防や対策、地域の感染症発生状況等の最新情報を入手し、取り入れている。	◎	常に発生状況の情報を集め、その都度予防対策・注意喚起を行っている。	/	/	/	
		d	地域の感染症発生状況の情報収集に努め、感染症の流行に随時対応している。	◎	地域や系列施設での流行に合わせて予防・対策等の対応をしている。	/	/	/	
		e	職員は手洗いやうがいなど徹底して行っており、利用者や来訪者等についても清潔が保持できるよう支援している。	◎	手洗い・うがい・アルコール消毒を徹底しており、予防対策としてマスク等も活用している。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
<b>II. 家族との支え合い</b>									
37	本人とともに支え合う 家族との関係づくりと支援	a	職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽をともにし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	△	利用者の様子を報告すると共に、家族との会話を多く持つように行っている。				家族には行事の案内をしているが、参加する家族は限られているため、今後は家族全員の参加を目標に努力して欲しい。手紙や電話で家族に定期的に利用者のことを報告すると共にホームだよりで行事の様子を写真入りで記事にしたり、次の月の行事予定を詳しく書いてお知らせしている。職員の異動については常に報告し、設備改修についても家族に説明を予定している。職員は家族が話しかけやすいような関係が築けるよう、来訪時には利用者の近況報告をするなど、信頼関係の構築に努めている。
		b	家族が気軽に訪れ、居心地よく過ごせるような雰囲気づくりや対応を行っている。(来やすい雰囲気、関係再構築の支援、湯茶の自由利用、居室への宿泊のしやすさ等)	○	常に面会は出来るようにしている。また家族と本人の時間がゆっくり過ぎて頂けるように配慮している。				
		c	家族がホームでの活動に参加できるように、場面や機会を作っている。(食事づくり、散歩、外出、行事等)	△	年に2回大きい行事や家族会は設けているが一緒に何かをする事は今は少ない。	◎		△	
		d	来訪する機会が少ない家族や疎遠になってしまっている家族も含め、家族の来訪時や定期的な報告などにより、利用者の暮らしぶりや日常の様子を具体的に伝えている。(「たより」の発行・送付、メール、行事等の録画、写真の送付等)	○	日々の生活の様子や事業所たよりを全家族に配布しておりその都度近況報告をしている。ケアプラン送付時に近況報告を同封してお伝えしている。	◎		○	
		e	事業所側の一方的な情報提供ではなく、家族が知りたいことや不安に感じていること等の具体的内容を把握して報告を行っている。	×	入居期間や関係によって異なるが定期的に情報交換出来ている家族と事業所からの伝達が多くなる方もいる。				
		f	これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係を築いていけるように支援している。(認知症への理解、本人への理解、適切な接し方・対応等についての説明や働きかけ、関係の再構築への支援等)	○	本人の状況をよく話し、対応している内容を説明している。また、疑問点や不安点はしっかりと話し合いを行い解決に努めている。				
		g	事業所の運営上の事柄や出来事について都度報告し、理解や協力を得るようにしている。(行事、設備改修、機器の導入、職員の異動・退職等)	△	事業所たよりの中に今後の行事について報告している。運営上の変更点等は手紙や口頭で家族にも説明し理解して頂いている。	○		○	
		h	家族同士の交流が図られるように、様々な機会を提供している。(家族会、行事、旅行等への働きかけ)	△	行事や家族会の参加案内を配布している。家族会は昨年からはじめたのでまだ参加者が少ない現状である。				
		i	利用者一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	○	本人の身に起こるリスクを家族に多視点で意見や対応策を伝え、実現に向けて努めている。				
		j	家族が、気がかりなことや、意見、希望を職員に気軽に伝えたり相談したりできるように、来訪時の声かけや定期的な連絡等を積極的に行っている。	○	面会時の挨拶と本人の様子等を伝えとると共に、家族との会話をもち関係が築いていけるよう努めている。			○	
38	契約に関する説明と納得	a	契約の締結、解約、内容の変更等の際は、具体的な説明を行い、理解、納得を得ている。	○	契約に関してはその都度内容を読み上げたり心配な事不安な事をゆっくり解決しながら納得して頂いている。				
		b	退居については、契約に基づくとともにその決定過程を明確にし、利用者や家族等に具体的な説明を行った上で、納得のいく退居先に移れるように支援している。退居事例がない場合は、その体制がある。	○	退居に至る場合もその理由を丁寧に説明に滞ることなく次に移れるよう支援している。				
		c	契約時及び料金改定時には、料金の内訳を文書で示し、料金の設定期理由を具体的に説明し、同意を得ている。(食費、光熱水費、その他の実費、敷金設定の場合の償却、返済方法等)	○	料金改定時には文書と口頭にてその内容について説明を行い、同意を得ている。				

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
<b>Ⅲ.地域との支え合い</b>									
39	地域とのつきあいやネットワークづくり ※文言の説明 地域:事業所が所在する市町の日常生活圏域、自治会エリア	a	地域の人に対して、事業所の設立段階から機会をつくり、事業所の目的や役割などを説明し、理解を図っている。	△	町内会長をはじめ地域の方々には設立にあたり説明をしている。また運営推進会議の中でも役に立てること等お伺いしている。	/	○	/	町内会に入会し回覧も回ってくるため、地区の行事を把握することができる。地域とのかかわりについては、受け身ではなく進んで働きかけていこうと代表者や管理者は考えているが、手探りの段階である。新年のあいさつや運営推進会議の出席のお願いなど足を運んで一つひとつ努力を積み重ね、地域に根差した事業所になれるよう期待したい。
		b	事業所は、孤立することなく、利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、地域の人たちに対して日頃から関係を深める働きかけを行っている。(日常的なあいさつ、町内会・自治会への参加、地域の活動や行事への参加等)	○	散歩した時に挨拶をして顔を知っていただけるように努めている。事業所の行事に参加して頂けるよう関係づくりを目指している。	/	×	△	
		c	利用者を見守ったり、支援してくれる地域の人たちが増えている。	×	事業所の行事に参加して下さる地域の方はいる。	/	/	/	
		d	地域の方が気軽に立ち寄り遊びに来たりしている。	○	近隣の方が野菜など持って来てくださることがある。また体調が悪くなったと施設に来られ看護師がバイタルチェックをしたこともある。	/	/	/	
		e	隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらうなど、日常的なおつきあいをしている。	△	近くにごみ置き場があるので挨拶をする機会がある。また普段の散歩の時に挨拶をして顔を覚えていただけるようにしている。	/	/	/	
		f	近隣の住民やボランティア等が、利用者の生活の拡がりや充実を図ることを支援してくれるよう働きかけを行っている。(日常的な活動の支援、遠出、行事等の支援)	×	今の所近隣者の施設の目的や取り組みを知っていただくために運営推進会議の案内を配布や声掛けしか出来ていない。	/	/	/	
		g	利用者一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	△	三味線のボランティアや訪問理容の交流を続けている。	/	/	/	
		h	地域の人たちや周辺地域の諸施設からも協力を得ることができるよう、日頃から理解を拡げる働きかけや関係を深める取り組みを行っている(公民館、商店・スーパー・コンビニ、飲食店、理美容店、福祉施設、交番、消防、文化・教育施設等)。	○	11/5にある地区の文化祭に利用者作品の出展にむけて連携を取り計画を立てている。	/	/	/	
40	運営推進会議を活かした取り組み	a	運営推進会議には、毎回利用者や家族、地域の人等の参加がある。	△	地域の方・家族が何名か参加して下さるがメンバーがマンネリ化している事が多い。	○	/	△	参加者が少なく限られているため、今後は利用者にも参加してもらうなど、参加者が固定化しないよう取り組んで欲しい。外部評価や目標達成計画についての報告を行い、話し合う機会を設け意見等をもらい運営に活かしている。議事録には出席者の意見が細かく記録され、意見が出しやすい雰囲気であることがわかる。運営推進会議で出たアドバイスは、日々の利用者の生活に反映されるよう取り組んでいる。
		b	運営推進会議では、利用者やサービスの実績、評価への取り組み状況(自己評価・外部評価の内容、目標達成計画の内容と取り組み状況等)について報告している。	○	事業所便りを作成し参加者へ行事報告や取り組みについて説明している。外部評価後の運営推進会議の中で評価結果や目標達成計画について話し合う時間を設けている。	/	/	○	
		c	運営推進会議では、事業所からの一方的な報告に終わらず、会議で出された意見や提案等を日々の取り組みやサービス向上に活かし、その状況や結果等について報告している。	○	参加者に投げかけを行い、感想や要望等を聞くようにしている。地域について聞く事が多く、事業所が地域の役に立てよう話し合う機会を設けている。	/	◎	○	
		d	テーマに合わせて参加メンバーを増やしたり、メンバーが出席しやすい日程や時間帯について配慮・工夫をしている。	△	参加メンバーはほとんど同じであり、時間は平日午前中に開催している。	/	/	○	
		e	運営推進会議の議事録を公表している。	○	毎回運営推進会議後の報告書は家族に配布し協力して頂いている。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
<b>IV.より良い支援を行うための運営体制</b>									
41	理念の共有と実践	a	地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者、管理者、職員は、その理念について共通認識を持ち、日々の実践が理念に基づいたものになるよう日常的に取り組んでいる。	○	介護業務をする上で理念の基づき、家庭的なホームを目指して取り組んでいる。また目に入る所に理念を飾り、統一したケアが行えるように実践している。	/	/	/	
		b	利用者、家族、地域の人たちにも、理念をわかりやすく伝えている。	△	運営推進会議で使用する会議室に理念を飾っているが、運営推進会議等で説明は出来ていない。	○	○	/	
42	職員を育てる取り組み ※文言の説明 代表者：基本的には運営している法人の代表者であり、理事長や代表取締役が該当するが、法人の規模によって、理事長や代表取締役をその法人の地域密着型サービス部門の代表者として扱うのは合理的ではないと判断される場合、当該部門の責任者などを代表者として差し支えない。したがって、指定申請書に記載する代表者と異なることはありうる。	a	代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、計画的に法人内外の研修を受けられるよう取り組んでいる。	○	研修の案内を掲示し、参加を促している。また、外部の研修や勉強会に力量に合った職員を選出し、参加する事でスキルアップにつながるよう支援している。	/	/	/	代表者は年1回ストレスチェックを行い、介護支援専門員が職員と個別に面談し、原因になる要因を聞き取り方針も一緒に考えている。職員は年齢差はあってもお互い仲が良く、働きやすい職場と感じている。
		b	管理者は、OJT(職場での実務を通して行う教育・訓練・学習)を計画的に行い、職員が働きながらスキルアップできるよう取り組んでいる。	△	ミーティング等で職員間で話し合いが出来るように努めている。	/	/	/	
		c	代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	○	資格習得や研修参加によって役割や役職を設け意欲向上が図れるように心掛けている。	/	/	/	
		d	代表者は管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互研修などの活動を通して職員の意識を向上させていく取り組みをしている。(事業者団体や都道府県単位、市町単位の連絡会などへの加入・参加)	○	同系列内で外出や行事に参加し交流が図れている。同業者の交流は研修を通じて情報交換を図っている。	/	/	/	
		e	代表者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	○	毎年ストレスチェックを行い今の状態を把握に努めている。	○	○	○	
43	虐待防止の徹底	a	代表者及び全ての職員は、高齢者虐待防止法について学び、虐待や不適切なケアに当たるのは具体的にどのような行為なのかを理解している。	◎	年に1回以上外部の研修に参加しミーティングで社内研修を行い知識向上に努めている。	/	/	/	年1回の研修を職員は受講し、内部研修として資料を全職員に配布し説明し共有している。職員同士注意し合ったり、話し合える良い関係が築けており業務に活かしている。
		b	管理者は、職員とともに日々のケアについて振り返ったり話し合ったりする機会や場をつくっている。	○	その都度利用者の情報やケアについて話す機会を設けている。また心身の状態や困り事を聞き余裕の有無の確認をしている。	/	/	/	
		c	代表者及び全ての職員は、虐待や不適切なケアが見逃されることがないよう注意を払い、これらの行為を発見した場合の対応方法や手順について知っている。	○	ミーティングを時に注意喚起を行っている。また、各職員間で話し合えるように支援している。	/	/	○	
		d	代表者、管理者は職員の疲労やストレスが利用者へのケアに影響していないか日常的に注意を払い、点検している。	○	定期的に職員と勤務形態(夜勤回数等)や勤務内容について話し合いが行えている。毎年ストレスチェックを行い心身の状態を把握に努めている。	/	/	/	
44	身体拘束をしないケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」や「緊急やむを得ない場合」とは何かについて正しく理解している。	○	外部の研修へ参加したり、社内研修で知識向上を図れており、情報共有に努めている。	/	/	/	
		b	どのようなことが身体拘束に当たるのか、利用者や現場の状況に照らし合わせて点検し、話し合う機会をつくっている。	○	日常の中で不適切なケア・声のかけ方等職員一人一人が身体拘束に当てはまらないように考え話し合っている。	/	/	/	
		c	家族等から拘束や施設への要望があっても、その弊害について説明し、事業所が身体拘束を行わないケアの取り組みや工夫の具体的な内容を示し、話し合いを重ねながら理解を図っている。	○	今の所家族からの要望はないが、入所時の説明で身体拘束の説明をしており同意して頂いている。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
45	権利擁護に関する制度の活用	a	管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学び、それぞれの制度の違いや利点などを理解している。	×	実際に制度を利用している利用者はあるが、管理者や一部の職員しか知らないし、具体的な事は分からない職員も多い。	/	/	/	
		b	利用者や家族の現状を踏まえて、それぞれの制度の違いや利点なども含め、パンフレット等で情報提供したり、相談にのる等の支援を行っている。	×	外部の研修に参加に社内研修等で知識を身に付けているが今のところ利用者や家族に説明できていない。	/	/	/	
		c	支援が必要な利用者が制度を利用できるよう、地域包括支援センターや専門機関(社会福祉協議会、後見センター、司法書士等)との連携体制を築いている。	△	実際に利用している利用者があり、定期的に連絡を取り合い関係を築いている。	/	/	/	
46	急変や事故発生時の備え・事故防止の取り組み	a	怪我、骨折、発作、のど詰まり、意識不明等利用者の急変や事故発生時に備えて対応マニュアルを作成し、周知している。	○	冷静かつ迅速な動きが出来るようにマニュアルを作成し知識を深めている。	/	/	/	
		b	全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	△	看護師による指導・勉強会をしているがすべての応急手当について理解出来ているとは言えない。	/	/	/	
		c	事故が発生した場合の事故報告書はもとより、事故の一手手前の事例についてもヒヤリハットにまとめ、職員間で検討するなど再発防止に努めている。	○	ヒヤリハットを作成し未然に事故を防げるように努めている。また、その都度申し送りやミーティングで話し合いの場を設けている。	/	/	/	
		d	利用者一人ひとりの状態から考えられるリスクや危険について検討し、事故防止に取り組んでいる。	○	ミーティング時各入居者について話し合いを行っている。看護師からの助言もある。またヒヤリハットを活用し未然に防ぐ事が出来るよう努めている。	/	/	/	
47	苦情への迅速な対応と改善の取り組み	a	苦情対応のマニュアルを作成し、職員はそれを理解し、適宜対応方法について検討している。	△	マニュアルを作成し意識共有を図っている。十分に対応方法全職員に浸透出来ていない。	/	/	/	
		b	利用者や家族、地域等から苦情が寄せられた場合には、速やかに手順に沿って対応している。また、必要と思われる場合には、市町にも相談・報告等している。	○	マニュアルの中に手順を掲載しており迅速に対応できるよう目指している。苦情用の様式もあり、記録に残すよう努めている。	/	/	/	
		c	苦情に対しての対策案を検討して速やかに回答するとともに、サービス改善の経過や結果を伝え、納得を得ながら前向きな話し合いと関係づくりを行っている。	○	苦情内容をもとに改善策を全員で考え経過観察・結果も記録に残す。	/	/	/	
48	運営に関する意見の反映	a	利用者が意見や要望、苦情を伝えられる機会をつくっている。(法人・事業所の相談窓口、運営推進会議、個別に訊く機会等)	○	外出時や居室で過ごしている時に今困っている事など話しやすい環境作りを心掛けている。	/	/	○	利用者と1対1になれる外出時や入浴時にいろいろ話を聞いている。家族には来訪時や家族会で要望を聞いている。職員は管理者に意見を出しやすい関係が築けおり、気軽に何でも相談している。管理者は2ユニットを行ったり来たりし、両ユニットの状況を常に見守っており、職員は安心して業務に専念することができる。
		b	家族等が意見や要望、苦情を伝えられる機会をつくっている。(法人・事業所の相談窓口、運営推進会議、家族会、個別に訊く機会等)	○	年に2回家族会を設けている。その中で意見・要望をお伺いしている。また、家族会用にアンケートを作成しており要望を書いていたできるように努めている。	◎	/	○	
		c	契約当初だけではなく、利用者・家族等が苦情や相談ができる公的な窓口の情報提供を適宜行っている。	△	入所後家族から相談があった時は市町村の窓口をお伝えしている。	/	/	/	
		d	代表者は、自ら現場に足を運ぶなどして職員の意見や要望・提案等を直接聞く機会をつくっている。	○	ミーティング時に意見を言いやすい環境作りを目指している。また、普段の会話の中から話し合う機会を設けている。	/	/	/	
		e	管理者は、職員一人ひとりの意見や提案等を聴く機会を持ち、ともに利用者本位の支援をしていくための運営について検討している。	○	ミーティングの時に意見が出やすい環境作りを目指している。また、職員も利用者主体で考え、思いが反映出来るように努めている。	/	/	○	

愛媛県グループホーム斎院の杜

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
49	サービス評価の取り組み	a	代表者、管理者、職員は、サービス評価の意義や目的を理解し、年1回以上全員で自己評価に取り組んでいる。	△	自己評価は一年に一回実施しているが、十分に時間を設けることが出来ていない。	/	/	/	外部評価結果については、事業所の今後の取組み等を含め、常に家族に報告し率直な意見や提案等をもらい、サービス向上に活かしている。
		b	評価を通して事業所の現状や課題を明らかにするとともに、意識統一や学習の機会として活かしている。	○	評価を通じてミーティングで話し合いを行い改善に向けて取り組んでいる。	/	/	/	
		c	評価(自己・外部・家族・地域)の結果を踏まえて実現可能な目標達成計画を作成し、その達成に向けて事業所全体で取り組んでいる。	○	無理な計画を立てるのではなく出来る事を中心に目標設定をし努めている。	/	/	/	
		d	評価結果と目標達成計画を市町、地域包括支援センター、運営推進会議メンバー、家族等に報告し、今後の取り組みのモニターをしてもらっている。	△	評価後運営推進会議の時に評価結果や目標達成経過の報告をしている。今後の取り組みについて助言を頂いている。	×	△	○	
		e	事業所内や運営推進会議等にて、目標達成計画に掲げた取り組みの成果を確認している。	○	家族会や個別ケアなど目標達成項目についてその都度報告している。ミーティングで振り返り良くしていけるよう話し合いの機会を設けている。	/	/	/	
50	災害への備え	a	様々な災害の発生を想定した具体的な対応マニュアルを作成し、周知している。(火災、地震、津波、風水害、原子力災害等)	○	地震・火災・風水害のマニュアルを作成している。また、いつでも確認できるように掲示している。	/	/	/	年2回の避難訓練は実施しているが、地域との連携等が不十分なため、運営推進会議と同時に開催するなど工夫し、地域との関係構築に努めて欲しい。
		b	作成したマニュアルに基づき、利用者が、安全かつ確実に避難できるよう、さまざまな時間帯を想定した訓練を計画して行っている。	△	日中を想定した避難訓練が多く、夜間想定回数は少ない。これから力を入れていきたい所である。	/	/	/	
		d	消火設備や避難経路、保管している非常用食料・備品・物品類の点検等を定期的に行っている。	○	避難経路は見えやすい所に掲示していると共に避難訓練実施の時に避難経路の確認をしている。	/	/	/	
		e	地域住民や消防署、近隣の他事業所等と日頃から連携を図り、合同の訓練や話し合う機会をつくるなど協力・支援体制を確保している。	×	運営推進会議の中で避難訓練を実施したり、防災について話し合う時もあるが、近隣の他事業所とは話し合う機会を作れていない。	×	◎	△	
		f	災害時を想定した地域のネットワークづくりに参加したり、共同訓練を行うなど、地域の災害対策に取り組んでいる。(県・市町、自治会、消防、警察、医療機関、福祉施設、他事業所等)	△	運営推進会議に防災訓練を兼ね合わせ家族・地域の方にも参加出来るように努めている。	/	/	/	
51	地域のケア拠点としての機能	a	事業所は、日々積み上げている認知症ケアの実践力を活かして地域に向けて情報発信したり、啓発活動等に取り組んでいる。(広報活動、介護教室等の開催、認知症サポーター養成研修や地域の研修・集まり等での講師や実践報告等)	×	運営推進会議の中で研修発表の機会を設けているが地域に向けての情報発信等は行っていない。	/	/	/	近所の方が相談に来ることもあるが、件数等も少ないので、今後は回覧板等で相談支援ができる事業所であることの広報を積極的に行い、地域の相談拠点となる事業所を目指して欲しい。 地区の文化祭や行事などに参加し、事業所のことを地域住民にも知ってもらい、市や地域包括支援センターなどとも連携し、イベントや地域活動等の取組みが望まれる。
		b	地域の高齢者や認知症の人、その家族等への相談支援を行っている。	×	運営推進会議や夏祭りに参加された地域の方には声をかけ相談対応を行っている。	/	△	△	
		c	地域の人たちが集う場所として事業所を解放、活用している。(サロン・カフェ・イベント等交流の場、趣味活動の場、地域の集まりの場等)	×	近隣の方に夏祭りの案内等のみで地域の方々が集えるような環境作りが出来ていない。	/	/	/	
		d	介護人材やボランティアの養成など地域の人材育成や研修事業等の実習の受け入れに協力している。	×	ボランティアの受け入れる体制は整っているが今の所実現出来ていない。	/	/	/	
		e	市町や地域包括支援センター、他の事業所、医療・福祉・教育等各関係機関との連携を密にし、地域活動を協働しながら行っている。(地域イベント、地域啓発、ボランティア活動等)	◎	味生地区総合文化祭に利用者の作品を展示するために計画している。	/	/	△	